

資料 1

# (一社) 神戸港振興協会 事業概要

## 平成26年度事業報告書

### 1. 事業概要

#### 1) 神戸港振興事業

積極的かつ効果的な神戸港への船舶と貨物の誘致を進めるとともに、周辺地域、関係団体などとの連携をはかりながら、親しみやすい港づくりの事業を展開し、神戸港の活性化をはかるため、次の諸事業を実施した。

##### (1) ポートセールス事業

- ① 貨物誘致活動の推進
- ② 客船誘致活動の推進と神戸港の観光船等の振興  
(クルーズ客船入港の平成26年度実績99隻、26年の暦年では100隻)
- ③ 中古建機・中古自動車関連企業及び神戸港荷主企業との各ネットワーク協議会の運営
- ④ 国内外諸港等との交流の実施等
- ⑤ 神戸港オリエンテーションの開催 (68社/412人参加)
- ⑥ 神戸港フォークリフト荷役技能向上大会の実施 (35選手参加)
- ⑦ 初入港船・新規航路開設第1船等歓迎行事等の実施 (23隻)
- ⑧ 神戸港案内業務の実施 (95件/3,643人)
- ⑨ 神戸港カレンダーの発行 (貨物版2,000部、客船版1,000部)
- ⑩ 海外主要港視察研修会の実施 (中国・青島港:11企業・団体/15名参加)
- ⑪ 国内外における神戸港セミナーへの協力、参加
- ⑫ その他

##### (2) 市民と港を結ぶイベント・広報事業

- ① 市民見学会 (クルーズ客船・帆船・進水式他)・体験航海等の実施 (25回)
- ② 帆船・クルーズ客船等の歓送迎行事の実施 (54回)
- ③ KOBEメリケンフェスタ2014の実施 (5月3日(土・祝)～6日(火・振休))  
(来場者 104,000人)
- ④ 第36回神戸港カッターレースの実施 (5月11日(日)) (106チーム参加)
- ⑤ 神戸まつり「ヨットレース」の実施 (5月11日(日)・5月18日(日)) (55艇参加)
- ⑥ 神戸まつり「港の行事」の実施 (5月16日(金))
- ⑦ 神戸まつりメインフェスティバル「おまつりパレード」への参加  
(5月18日(日)) (参加者180人)
- ⑧ 第13回Kobe Love Portみなとまつりの実施 (7月20日(日)～21日(月・祝))  
(来場者 237,200人)

- ⑨ 第30回神戸港ボート天国の実施（7月21日（月・祝））（来場者 5,875人）
- ⑩ 第44回みなとこうべ海上花火大会の実施（8月2日（土））（来場者 252,600人）
- ⑪ こども交流海洋教室の実施（8月7日（木）・20日（水））（参加者118人）
- ⑫ 「神戸港夏物語2014」 “KOBE MUSIC & GOURMET PORT” の実施  
（8月23日（土）～24日（日））（来場者 40,000人）
- ⑬ 神戸港PR誌「神戸港からのたより」の発行（年4回）
- ⑭ みなと振興友の会の運営（153人）
- ⑮ フェイスブックなどインターネットによる情報発信事業
- ⑯ その他

## 2) タワー・博物館事業

神戸ポートタワー及び神戸海洋博物館の運営を通じ、神戸港を広くPRすることにより、港への理解と親しみやすい港づくりに寄与し、あわせて港湾・海事思想の普及をはかるため、タワー・博物館事業を実施した。

特に、国の登録有形文化財（建造物）に登録されたことから、それに伴う記念事業を平成26年7月及び平成27年3月に実施した。

### (1) タワー事業

神戸ポートタワーは昭和38年の開設以来、みなと神戸のシンボルとして市民・観光客に親しまれてきたが、一昨年に開業50周年を迎え、さらに昨年12月19日には国の登録有形文化財として登録され新たに文化財としての価値が加わった。また、昨年12月1日にはNPO法人地域活性化支援センターよりプロポーズにふさわしい“ロマンチックなスポット”として、「恋人の聖地サテライト」に認定された。

そのほか都心ウオーターフロントエリアの夜間形成の取り組みとして、昨年10月10日より神戸ポートタワー、神戸海洋博物館のライトアップ終了時間を23時30分に延長した。

#### ① 国登録有形文化財（建造物）への登録に伴う記念事業

※文化審議会の審議・議決→文部科学大臣へ答申：平成26年7月18日

※登録日：平成26年12月19日

※登録プレート設置：平成27年3月20日

- ・登録記念イルミネーション（平成26年7月19日（土）～21日（月・祝）、平成27年3月20日（金）～22日（日））レインボーのイルミネーションでライトアップ

- ・入場者プレゼント

（平成26年7月19日（土）～21日（月・祝）、平成27年3月20日（金）～22日（日））

7月…50周年記念シール、オリジナルボールペン（先着150名×3日）

3月…オリジナルボールペン（先着50名×3日）

- ・登録プレート除幕式（平成27年3月20日（金））

一日タワー長（NMB48：岸野里香さん）を任命。「登録有形文化財」プレ

ートの除幕式を行うとともに、マスコットキャラクター「キャプテンタワー君」とともに地元メディアを訪問し、ポートタワーのPRを行った。

- ・神戸市内パン店とのコラボレーションキャンペーン

(平成27年3月23日(月)～31日(火)) パン店とタイアップし、主要店舗で限定商品の販売やポートタワー入館割引券の配布を行った。

## ② 集客イベント等

- ・神戸プロポーズの日(毎月第1日曜)
- ・四季折々のイベント(端午の節句、七夕、クリスマス、元旦初日の出展望、バレンタインデー、雛祭り等)
- ・展望の日イベント(10月1日(水))
- ・ライトアップ延長(10月10日(金)～/23時30分まで延長)
- ・チャレンジ476(10月13日(月・祝))※台風接近により中止
- ・「恋人の聖地サテライト」(ロマンチックなスポット)に選定される(12月1日(月))
- ・神戸ポートタワー“公認”限定生産万年筆の展示(12/12(金)～)
- ・ワタナベフラワーライブ(12月14日(日))
- ・FLAT ARKオリジナル「カシオG-SHOCKワールドチャンピオンモデル」展示・除幕式(3月8日(日))
- ・ご当地婚姻届制度(3/9(月)～婚姻届持参者へペア入場券と合鍵を¥1,200で販売)
- ・「国登録有形文化財」登録記念式典(3月20日(金))：再掲

## ③ 入場者数(平成26年度)

有料入場者数： 327,604 人 総入場者数： 332,849 人

## (2) 博物館事業

### ① 神戸海洋博物館の運営

神戸海洋博物館は、神戸開港120年記念事業として昭和62年4月にオープンした。「海から港から神戸が始まり、未来に船出する」のコンセプトで展示した「海洋博物館」と川崎重工業の企業博物館「カワサキワールド」を併設する施設として運営した。

#### 【展示・企画展等】

- ・ペーパーシップモデル友の会「ザ・コンパス作品展」  
(4月19日(土)～5月18日(日)) 26,568人
- ・第15回帆船模型教室《「スコットランド」号製作》  
(5月10日(土)～12月20日(土)) 20人×全15回
- ・「水中写真展」(5月24日(火)～6月29日(日)) 24,631人
- ・第37回日本ボトルシップ協会新作発表展(60点)  
(7月5日(土)～20日(日)) 8,144人

- ・海上保安庁展「2014～私のまちの海上保安官 第五管区海上保安本部～」  
(7月23日(火)～9月7日(日)) 32,033人
  - ・夏休みボトルシップ教室 (8月17日(日)) 94人(小・中学生41、大人53)
  - ・第五管区海上保安本部「水路記念日展示」  
(9月6日(土)～11日(木)) 3,009人
  - ・第25回人と海のフォトコンテスト「マリナーズ・アイ入賞作品展」(海上保安庁)  
(9月25日(木)～10月5日(日))
  - ・第五管区海上保安本部 第15回「未来に残そう青い海図画コンクール」入賞作品展  
(12月6日(土)～14日(日)) 4,771人
  - ・「2015年世界の船会社等カレンダー展」「神戸海洋博物館ボトルシップ愛好会作品展」  
(12月20日(土)～1月25日(日)) 12,760人
  - ・「モーターサイクルフェア Ninja H2R」(カワサキワールド)  
(2月3日(火)～15日(日)) 14,584人
  - ・帆船模型教室生徒作品展 (2月24日(火)～3月8日(日)) 7,309人
  - ・神戸みなとの知育楽座Part6(7回開催/述べ761人)  
(6/7, 8/30, 10/4, 11/29, 12/13, 1/31, 2/21:いずれも土曜日)
- 等

#### 【館外展示】

- ・第5回「波濤を越えて 神戸展」(全日本海員組合:中突堤中央ターミナル)  
(5月15日(木)～5月18日(日))

#### 【屋外展示物の管理・運営等】

- ・神戸港震災メモリアルパーク(指定管理)
- ・超電導電磁推進船「ヤマト1」、テクノスーパーライナー実海域模型船「疾風」、無人潜水機「マリンバード」、復元帆船「サンタ・マリア」モニュメント(望楼、いかり)、トリガー、大型コンテナ船のタービン、海上コンテナ、錨
- ・その他 屋上レストラン等

#### ② 入館者数(平成26年度)

有料入館者数: 190,496人 総入館者数: 224,508人

#### (3) プロモーション活動の展開

神戸国際観光コンベンション協会、メリケンパーク地区の観光船、ホテル及び周辺の商業地域等と連携を図り、積極的なプロモーション活動を実施した。

- ① 一般団体・学校団体誘致
- ② 近畿、中国・四国、東海地方等の旅行代理店やバス会社等へのPRセールス

- ③ 市内ホテル、元町商店街、南京町等へのパンフレット等の配布
- ④ メリケンパーク地区のホテル、観光船運航会社等との連携（メリケンパーク協議会）によるPR

### 3) 施設の指定管理及び各種運営受託

神戸港を利用する人々をはじめ、広くユーザーへのサービスの充実をはかるとともに、親しみやすい港づくりを推進するため、次の施設の管理・運営事業等を実施した。

- (1) 須磨ヨットハーバーの管理運営（指定管理） (利用船舶 215隻)
- (2) 神戸ポートターミナル・中突堤旅客ターミナルの管理運営（指定管理） (利用隻数 122隻)
- (3) 神戸港震災メモリアルパークの管理運営（指定管理）
- (4) 中突堤中央ビルの運営
- (5) 国産1号・2号上屋の活用事業（波止場町TEN×TEN）
- (6) メリケンパーク駐車場及びかもめりあ駐車場等の運営受託 (利用台数 138,918台)
- (7) メリケンパークの巡回業務受託
- (8) 港湾幹線道路等料金徴収業務受託 (通行台数 11,535,933台)
- (9) メリケンパークレストラン（カフェフィッシュ）及びコンビニエントストア「神戸新港東店」の賃貸事業
- (10) メリケンパークレストハウス及びフィッシュダンス音楽練習場の運営 (音楽練習場利用件数 1,535 件)
- (11) 須磨海水浴場の運営付随業務受託

### 4) 会員サービスの充実

会員企業に有益なテーマを設定した「会員向けセミナー」を開催(2回)

<実施日、テーマ、参加者数>

- ・10月9日：企業における地震・津波対策と事業継続計画 (97名参加)
- ・3月24日：アジア経済と港湾及び内陸物流輸送の最新状況 (64名参加)

## 2. 庶務状況

### 1) 会員

平成27年3月31日現在の会員数は546社であり、異動状況は次のとおりである。

項目	平成27年3月31日現在	平成26年3月31日現在	増△減
会員数	546	517	29
口数	918	892	26

### 2) 総会・理事会

理事会	第172回	平成26年	3月20日
理事会	第173回	平成26年	6月13日
定時総会	第71回	平成26年	6月27日
理事会	第174回	平成26年	6月27日
理事会	第175回	平成26年	8月6日
理事会	第176回	平成27年	3月27日

**正味財産増減計算書**

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	0	25,881	0
② 受取会費	0	0	13,860,000
③ 神戸港振興事業収益	46,014,534	0	0
④ 博物館事業収益	111,412,238	0	0
⑤ タワー事業収益	0	202,716,610	0
⑥ 受託・施設管理・出向事業収益	0	709,141,798	0
⑦ 受取補助金等	71,093,263	10,295,454	0
⑧ 寄附金収益	330,000	0	0
⑨ 雑収	7,573	18,346	3,997
⑩ 引当金取崩額	0	0	0
経常収益計	228,857,608	922,198,089	13,863,997
(2) 経常費用			
① 神戸港振興事業事業費	87,120,794	0	0
② 博物館事業費	167,675,025	0	0
③ タワー事業費	0	150,635,978	0
④ 受託・施設管理・出向事業費	0	617,136,693	0
⑤ 管理費	8,284,819	67,722,697	9,202,705
⑥ 引当金繰入額	10,000,000	10,006,680	0
経常費用計	273,080,638	845,502,048	9,202,705
当期経常増減額	△ 44,223,030	76,696,041	4,661,292
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 除却損失	1	0	0
② 投資有価証券減損損失	0	0	0
③ 過年度修正損	0	0	0
④ 他会計への繰出額	0	0	0
経常外費用計	1	0	0
当期経常外増減額	△ 1	0	0
他会計振替額	16,396,260	△ 16,396,260	0
当期一般正味財産増減額	△ 27,826,771	60,299,781	4,661,292
一般正味財産期首残高	△ 255,369,884	△ 236,987,761	28,958,312
一般正味財産期末残高	△ 283,196,655	△ 176,687,980	33,619,604
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
① 受取補助金等	0	0	0
② 受取寄付金	0	0	0
③ 一般正味財産への振替額	△ 24,713,263	△ 7,215,454	0
当期指定正味財産増減額	△ 24,713,263	△ 7,215,454	0
指定正味財産期首残高	1,053,693,304	107,329,523	0
指定正味財産期末残高	1,028,980,041	100,114,069	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	745,783,386	△ 76,573,911	33,619,604

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(全事業会計)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	25,881	26,834	△ 953
② 受取会費	13,860,000	13,320,000	540,000
③ 神戸港振興事業収益	46,014,534	48,497,072	△ 2,482,538
④ 博物館事業収益	111,412,238	96,118,524	15,293,714
⑤ タワー事業収益	202,716,610	201,551,174	1,165,436
⑥ 受託・施設管理・出向事業収益	709,141,798	660,669,845	48,471,953
⑦ 受取補助金等	81,388,717	88,588,717	△ 7,200,000
⑧ 寄附金収益	330,000	330,000	0
⑨ 雑収益	29,916	192,393	△ 162,477
⑩ 引当金取崩額	0	0	0
経常収益計	1,164,919,694	1,109,294,559	55,625,135
(2) 経常費用			
① 神戸港振興事業事業費	87,120,794	84,117,370	3,003,424
② 博物館事業費	167,675,025	185,415,160	△ 17,740,135
③ タワー事業費	150,635,978	150,381,520	254,458
④ 受託・施設管理・出向事業費	617,136,693	606,152,185	10,984,508
⑤ 管理費	85,210,221	76,606,474	8,603,747
⑥ 引当金繰入額	20,006,680	10,000,000	10,006,680
経常費用計	1,127,785,391	1,112,672,709	15,112,682
当期経常増減額	37,134,303	△ 3,378,150	40,512,453
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 除却損失	1	0	1
② 投資有価証券減損損失	0	1	△ 1
③ 過年度修正損	0	0	0
④ 他会計への繰出額	0	0	0
経常外費用計	1	1	0
当期経常外増減額	△ 1	△ 1	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	37,134,302	△ 3,378,151	40,512,453
一般正味財産期首残高	△ 463,399,333	△ 460,021,182	△ 3,378,151
一般正味財産期末残高	△ 426,265,031	△ 463,399,333	37,134,302
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
① 受取補助金等	0	0	0
② 受取寄付金	0	0	0
③ 一般正味財産への振替額	△ 31,928,717	△ 31,928,717	0
当期指定正味財産増減額	△ 31,928,717	△ 31,928,717	0
指定正味財産期首残高	1,161,022,827	1,192,951,544	△ 31,928,717
指定正味財産期末残高	1,129,094,110	1,161,022,827	△ 31,928,717
<b>III 正味財産期末残高</b>	702,829,079	697,623,494	5,205,585

貸借対照表

平成27年3月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金	85,187,871	361,104,321	38,041,913
預金	576,020	803,130	0
掛金	60,577,790	81,702,791	15,000
未収金	458,498	13,335,061	0
仮払金	0	1,768,284	0
その他仮払金	115,062,713	374,763,666	38,183,857
流動資産合計	261,862,892	833,477,253	76,240,770
2 固定資産			
特定資産			
建物	1,028,980,036	179,764,915	0
附属設備	5	52,904,461	0
退職給付引当資産	26,125,800	52,556,100	0
減価引当資産	0	98,317,044	0
修繕引当資産	15,000,000	16,828,854	0
減価却引当資産	0	3,940,877	0
特定資産合計	1,070,105,841	404,312,251	0
その他固定資産			
建物	1,582,885	44,025,898	0
構築物	4,586,337	180,350	0
附属設備	73,067,596	34,555,060	0
運搬器具	0	3	0
備品	3,194,689	3,821,683	0
電器器具	0	1,637,006	0
電話加入権	0	308,316	0
保証証券	0	10,000	0
投資有価証券	0	0	0
その他固定資産合計	82,431,507	84,538,316	0
固定資産合計	1,152,537,348	488,850,567	0
資産合計	1,414,400,240	1,322,327,820	76,240,770
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	45,440,094	130,879,774	3,697,368
前払金	643,140	3,989,866	0
預収金	805,192	194,453,750	552,592
仮受金	0	0	0
その他仮受金	315,229,628	174,409,402	38,371,206
流動負債合計	362,118,054	503,732,792	42,621,166
2 固定負債			
長期借入金	260,000,000	771,749,725	0
退職給付引当金	26,125,800	52,556,100	0
修繕引当金	15,000,000	16,828,854	0
預り保証金	5,373,000	54,034,260	0
固定負債合計	306,498,800	895,168,939	0
負債合計	668,616,854	1,398,901,731	42,621,166
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
補助金	1,028,980,041	88,936,769	0
寄附金	0	11,177,300	0
指定正味財産合計	1,028,980,041	100,114,069	0
(うち特定資産への充当額)	( 1,028,980,041 )	( 100,114,069 )	( 0 )
2 一般正味財産	△ 283,196,655	△ 176,687,980	33,619,604
(うち特定資産への充当額)	( △ 13,589,000 )	( 248,382,644 )	( 0 )
正味財産合計	745,783,386	△ 76,573,911	33,619,604
負債及び正味財産合計	1,414,400,240	1,322,327,820	76,240,770

## (全事業会計)

平成27年3月31日現在

(単位：円)

科	目	当年度	前年度	増減
I	資産の部			
1	流動資産			
	現金預金	484,334,105	396,327,092	88,007,013
	売掛金	1,379,150	1,365,590	13,560
	未収金	142,295,581	121,114,631	21,180,950
	繰越売店取扱品	0	902,944	△ 902,944
	仮払金	13,793,559	13,240,130	553,429
	その他仮払金	1,768,284	1,519,648	248,636
	その他会計立替金	528,010,236	345,448,155	182,562,081
	流動資産合計	1,171,580,915	879,918,190	291,662,725
2	固定資産			
	特定資産			
	建物	1,208,744,951	1,246,418,498	△ 37,673,547
	建物付属設備	52,904,466	63,387,217	△ 10,482,751
	退職給付引当資産	78,681,900	102,586,204	△ 23,904,304
	減債引当資産	98,317,044	98,297,460	19,584
	修繕引当資産	31,828,854	11,822,557	20,006,297
	減価償却引当資産	3,940,877	3,940,877	0
	特定資産合計	1,474,418,092	1,526,452,813	△ 52,034,721
	その他固定資産			
	建物	45,608,783	48,865,911	△ 3,257,128
	構築物	4,766,687	6,283,353	△ 1,516,666
	建物付属設備	107,622,656	125,225,891	△ 17,603,235
	車両器具運搬具	3	3	0
	工具器具備品	7,016,372	10,008,044	△ 2,991,672
	電話加入権	1,637,006	1,637,006	0
	保証金	308,316	308,316	0
	投資有価証券	10,000	10,000	0
	その他固定資産合計	166,969,823	192,338,524	△ 25,368,701
	固定資産合計	1,641,387,915	1,718,791,337	△ 77,403,422
	資産合計	2,812,968,830	2,598,709,527	214,259,303
II	負債の部			
1	流動負債			
	未払金	180,017,236	123,117,741	56,899,495
	前払金	4,633,006	7,497,292	△ 2,864,286
	預り金	195,811,534	171,716,770	24,094,764
	仮受金	0	458,960	△ 458,960
	その他会計受取金	528,010,236	345,448,155	182,562,081
	流動負債合計	908,472,012	648,238,918	260,233,094
2	固定負債			
	長期借入金	1,031,749,725	1,079,663,995	△ 47,914,270
	退職給付引当金	78,681,900	102,586,204	△ 23,904,304
	修繕引当金	31,828,854	11,822,174	20,006,680
	預り保証金	59,407,260	58,774,742	632,518
	固定負債合計	1,201,667,739	1,252,847,115	△ 51,179,376
	負債合計	2,110,139,751	1,901,086,033	209,053,718
III	正味財産の部			
1	指定正味財産			
	補助金	1,117,916,810	1,149,845,527	△ 31,928,717
	寄附金	11,177,300	11,177,300	0
	指定正味財産合計	1,129,094,110	1,161,022,827	△ 31,928,717
	(うち特定資産への充当額)	( 1,129,094,110 )	( 1,161,022,827 )	( △ 31,928,717 )
2	一般正味財産			
	(うち特定資産への充当額)	△ 426,265,031	△ 463,399,333	37,134,302
	( 234,793,644 )	( 251,021,225 )	( △ 16,227,581 )	
	正味財産合計	702,829,079	697,623,494	5,205,585
	負債及び正味財産合計	2,812,968,830	2,598,709,527	214,259,303

# 平成27年度事業計画書

## 1. 事業運営方針

神戸市ではコンテナ取扱量増加に向け、「国際コンテナ戦略港湾の推進」に取り組むとともに「ウォーターフロント地区の魅力向上」に向けクルーズ客船誘致や周辺整備の取り組みを進めている。

平成27年度は神戸港の集貨促進として、国の「国際戦略港湾競争力強化対策事業」制度を活用し、東アジア主要港からの貨物の奪還に取り組む。特に西日本からの集貨に向け、引き続き国際フィーダー網の拡充、海外フィーダー貨物の神戸港利用への転換や新規航路の誘致、中国・東南アジア地域からの貨物誘致として海外ポートセールス事業にも取り組んでいく。客船誘致では、アジアに配船されるクルーズ客船では過去最大となる「クェンタム・オブ・ザ・シーズ」や神戸港を拠点に日本発着クルーズを展開する「ダイヤモンド・プリンセス」など多くの外国客船の入港が予定されており、神戸ならではのおもてなし、手続きの円滑化など受入体制の強化・充実に取り組んでいく。

さらに平成29年に開港150年を迎えるにあたり、「神戸開港150年記念事業実行委員会」で記念事業の検討を進めるとともに広報やイベントの実施などの取り組みを通じて気運を高めていく。

当協会においては、これまでの経験を活かし、引き続いて、船社・荷主企業等へのポートセールスを行っていくとともに、親しみやすい港づくりに向け、客船誘致、花火大会をはじめとする市民と港を結ぶイベントを実施する。さらに、一昨年「開業50周年」を迎え、昨年12月国の登録有形文化財に登録された神戸ポートタワーのほか、神戸海洋博物館の更なる魅力アップにより集客をはかるとともに、須磨ヨットハーバーをはじめとする施設の指定管理、各種施設の運営受託など、神戸港振興に係る諸事業に会員をはじめ、関係官庁、業界のご協力を得ながら、全力をあげて取り組んでいく。

## 2. 事業概要

### 1) 神戸港振興事業

積極的かつ効果的な神戸港への船舶と貨物の誘致を進めるとともに、周辺地域、関係団体などとの連携をはかりながら、親しみやすい港づくりの事業を展開し、神戸港の活性化をはかるため、次の諸事業を実施する。

#### (1) ポートセールス関連事業

- ① 客船誘致協議会の運営など客船誘致活動の推進と観光船等の振興  
入港目標隻数 110隻（平成27年）
- ② 中古建機、中古自動車輸出企業及び神戸港進出企業との各ネットワーク協議会の運営（3回）
- ③ 国内外諸港との交流の実施等
- ④ 神戸港オリエンテーションの開催（4回）
- ⑤ 神戸港フォークリフト荷役技能向上大会の実施  
参加予定者 30選手
- ⑥ 初入港船・新規航路開設第1船歓迎行事等の実施（15回程度）
- ⑦ 神戸港案内業務の実施
- ⑧ 港湾関連企業等会員との情報交換会の開催

- ⑨ 神戸港関係業界連絡会議の開催
- ⑩ 神戸港カレンダーの発行 (3,000部)
- ⑪ 海外主要港視察研修会の実施
- ⑫ 国内外における神戸港セミナーへの協力、参加
- ⑬ その他

(2) 市民と港を結ぶイベント・広報事業

- ① 市民見学会 (クルーズ客船・帆船・練習船・進水式他)・体験航海等の実施  
(10回程度)
- ② 帆船・クルーズ客船等の歓送迎行事の実施 (65回程度)
- ③ KOBEメリケンフェスタ2015 の実施 (5月3日(日)~6日(水・振替))  
来場者見込 8万人
- ④ 第37回神戸港カッターレースの実施 (5月10日(日))  
参加予定 100チーム
- ⑤ 神戸まつり「ヨットレース」の実施 (5月10日(日)、5月17日(日))  
参加予定 50艇
- ⑥ 神戸まつり「港の行事」の実施 (5月15日(金))
- ⑦ 第14回Kobe Love Portみなとまつりの実施 (7月19日(日)~20日(月・祝))  
来場者見込 17万人
- ⑧ 第31回神戸港ボート天国の実施 (7月20日(月・祝))  
来場者見込 6,000人
- ⑨ 第45回みなとこうべ海上花火大会の実施 (8月8日(土))  
1万発、来場者見込 22万人
- ⑩ 神戸港夏物語2015 KOBE MUSIC & GOURMET PORTの実施  
来場者見込 2万人 (8月22日(土)~23日(日))
- ⑪ 神戸港PR誌「神戸港からのたより」の発行 (年4回)
- ⑫ みなと振興友の会の運営 (200人)
- ⑬ フェイスブックなど、インターネットによる情報発信事業 (150回程度)
- ⑭ その他

2) タワー・博物館事業

神戸ポートタワー及び神戸海洋博物館(カワサキワールドを含む)を通じ、神戸港を広くPRすることにより、港への理解と親しみやすい港づくりに寄与し、あわせて港湾・海事思想の普及をはかるため、タワー・博物館事業を実施する。また、来場者アンケートを実施し、入場者増やサービス向上に活かしていく。

(1) タワー事業

神戸ポートタワーは昭和38年の開設以来、みなと神戸のシンボルとして市民・観光客に親しまれてきたが、一昨年に開業50周年を迎え、さらに昨年12月19日には国の登録有形文化財として登録され新たに文化財としての価値が加わった。また、昨年12月1日にはNPO法人地域活性化支援センターよりプロポーズにふさわしい“ロマンチックなスポット”として、「恋人の聖地サテライト」に認定された。

そのほか都心ウオーターフロントエリアの夜間形成の取り組みとして、昨年10月10日より神戸ポートタワー、神戸海洋博物館のライトアップ終了時間を23時30分に延長した。引き続き、集客アップにつながる各種イベント等を実施し集客増に努める。

① 集客イベント等

- ・こどもの日、七夕、クリスマス、元旦初日の出展望、節分、バレンタイン、雛祭り等の四季折々のイベント
- ・展望の日（10月1日）イベント
- ・チャレンジ476（階段登りイベント）
- ・神戸プロポーズの日（毎月第1日曜） など

② 入場者数

有料入場者見込 354,000人

(2) 博物館事業

神戸海洋博物館は、神戸開港120年記念事業として、昭和62年4月にオープンした。「海から港から神戸が始まり、未来に船出する」のコンセプトで展示した「海洋博物館」と川崎重工業の企業博物館「カワサキワールド」を併設する施設として魅力ある企画展等を実施する。

① 展示・企画展等

- ・モデルシップ友の会「ザ・コンパス作品展」（仮題）  
(4月26日(日)～5月31日(日))
- ・「水中写真展～スキューバダイビングの神秘～」(6月2日(土)～6月28日(日))
- ・「日本ボトルシップ協会新作発表展」 (7月7日(火)～7月19日(日))
- ・「海の絵画コンクール入賞作品展」(展示協力) (7月中旬～下旬)
- ・「海上保安庁展2015」 (7月下旬～9月上旬)
- ・「水路記念日展」(展示協力) (9月上旬～中旬)
- ・「第27回マリナーズ・アイ展」(展示協力) (9月20日(日)～10月8日(木))
- ・「147周年灯台記念日展」(展示協力) (10月下旬～11月初旬)
- ・特別展「海と船のふしぎ(仮題)」(予定) (10月31日(土)～12月20日(日))
- ・「2016年世界の船会社等カレンダー展」 (12月19日(土)～1月24日(日))
- ・「神戸海洋博物館ボトルシップ愛好会作品展」(12月19日(土)～1月24日(日))
- ・「モーターサイクルフェア(仮題)」 (2月上旬～中旬)
- ・「帆船模型教室生徒作品展」 (3月初旬～中旬)
- ・みなとの知育楽座
- ・夏休みボトルシップ教室・帆船模型教室 など

② 入館者数

有料入館者見込 200,000人

③ 屋外展示物の管理・運営等

- ・神戸港震災メモリアルパーク（指定管理）
- ・超電導電磁推進船「ヤマト1」、テクノスーパーライナー実海域模型船「疾風」、川崎重工業「マリン・バード」、大型コンテナ船のタービン、海上コンテナ、錨、トリガー装置、「サンタ・マリア」記録展示、フィッシュダンスモニュメント

(3) プロモーション活動の推進

メリケンパーク地区の観光船・ホテル及び周辺の商業地域等と連携し、旅行代理店やバス会社等へのセールス活動に努めるとともに、市内外の教育機関等へのPRを行う。

3) 施設の指定管理及び各種運営受託

神戸港を利用する人達をはじめ、広くユーザーへのサービスの充実をはかるとともに、親しみやすい港づくりを推進するため、次の施設の管理・運営事業等を実施する。

- ① 須磨ヨットハーバーの管理運営（指定管理）  
利用船舶 220隻
- ② 神戸ポートターミナル・中突堤旅客ターミナルの管理運営（指定管理）  
利用隻数 140隻
- ③ 神戸港震災メモリアルパークの管理運営(指定管理) {再掲}
- ④ 中突堤中央ビルの運営
- ⑤ 国産1号・2号上屋の活用事業（波止場町TEN×TEN）
- ⑥ メリケンパーク駐車場・かもめりあ駐車場及びメリケン臨時駐車場等の受託  
利用台数見込 14万台
- ⑦ メリケンパークの巡回業務受託
- ⑧ 港湾幹線道路等料金徴収業務受託  
通行台数見込 1,250万台
- ⑨ メリケンパークレストラン（カフェフィッシュ）及びコンビニエントストア「神戸新港東店」の賃貸事業
- ⑩ メリケンパークレストハウス及びフィッシュダンス音楽練習場の運営  
音楽練習場利用件数見込 1,500件
- ⑪ 須磨海水浴場の運営付随業務受託
- ⑫ その他

4) 会員サービスの充実

会員サービス充実・向上事業として、会員企業に有益なテーマを設定し「会員向けセミナー」を開催する。また、セミナー開催時に「会員交流会」も同時開催し、会員相互の意見交換・親睦の場を提供する。平成26年度は10月と3月に2回開催したが、今後も引き続き定期的で開催していく。

外郭団体に関する特別委員会資料

平成27年度

一般財団法人神戸国際観光コンベンション協会  
事業概要

産 業 振 興 局

## 目 次

I	協会設立の趣旨	1
II	協会の概要	1
1	名 称	1
2	設立年月日	1
3	所在地	1
4	基本財産	1
5	機構及び職員数	2
6	役員等	4
III	定 款	6
IV	平成26年度事業報告	12
1	事業報告	12
2	事業別収支計算書	26
3	正味財産増減計算書	27
4	貸借対照表	29
5	財産目録	30
6	事業別収入明細書	31
7	事業別支出明細書	32
8	収支計算書	33
V	平成27年度事業計画	34
1	事業計画	34
2	経営改善の取り組み状況	39
3	事業別収支予算書	40
4	予定正味財産増減計算書	41
5	予定貸借対照表	43
6	事業別予定収入明細書	44
7	事業別予定支出明細書	45
8	収支予算書	46
VI	平成26年度主要事業計画・実績比較表	47
VII	主要事業の推移（平成24年度～平成26年度）	48



## I 協会設立の趣旨

観光事業を国内外において推進するとともに、コンベンションの誘致・支援等の事業を行うことにより、神戸経済の発展と市民文化の向上、さらには国際交流及び国際親善に寄与することを目的とする。

## II 協会の概要

- |         |  |
|---------|--|
| 1 名 称   | 一般財団法人 神戸国際観光コンベンション協会                       |
| 2 設立年月日 | 設立許可 昭和 62 年 4 月 1 日<br>設立登記 昭和 62 年 4 月 1 日 |
| 3 所在地   | 神戸市中央区港島中町 6 丁目 9 番 1                        |
| 4 基本財産  | 130,000 千円（神戸市全額出捐）                          |

### <参 考>

基本財産額の推移	昭和 62 年度	50,000 千円
	平成元年度	100,000 千円
	平成 11 年度	130,000 千円

5 機構及び職員数

平成27年7月1日現在

(1) 機構



【凡例】

- ・印は神戸市派遣職員
- 印は神戸市退職職員
- \*印は神戸市再任用職員
- ★印は民間派遣職員

## (2) 職員数

平成27年7月1日現在

(単位:人)

区 分	会 長	常 務	部 長 ・ 参 事	課 長	課長補佐 ・ 館 長	職 員	嘱託職員	合 計
経営推進部	1	1 (1)		3 (1)	3	2	6	16 (2)
総務課	1	1 (1)		2 (1)	1	2		7 (2)
有馬担当				1	2		6	9 (0)
観光部			2 (1)	6 ★ (1)	8 ★	2	4	22 (2)
企画課			1 (1)	3 ★ (1)	2	1	2	9 (2)
事業課				1	3	1	1	6 (0)
総合インフォメーションセンター					1 ★		1	2 (0)
推進課			1	1	1			3 (0)
萌黄の館					1			1 (0)
須磨海浜水族園				1				1 (0)
コンベンション事業部			1 (1)	4 ★	1	3		9 (1)
誘致課			1 (1)	3 ★	1	2		7 (1)
調査課				1		1		2 (0)
コンベンション施設部			1 (1)	2	5	5	1	14 (1)
運営課			1 (1)	1	5	2 ★	1	10 (1)
営業課				1		3 ★		4 (0)
合 計	1 (0)	1 (1)	4 (3)	15 (2)	17 (0)	12 (0)	11	61 (6)

<注> ( ) は、神戸市派遣職員で内数

★印は、民間派遣職員 8名（観光部プロモーション担当課長2名、観光部総合インフォメーションセンター1名、コンベンション事業部誘致担当課長2名、コンベンション施設部担当3名）を含む

## 6 役員等

## (1) 評議員

平成 27 年 8 月 1 日現在

役 職	氏 名	所 属 団 体 及 び 役 職
評 議 員	浅 木 隆 子	北野・山本地区をまもり、そだてる会 会長
評 議 員	砂 金 美 津 子	神戸市旅館組合連合会 相談役
評 議 員	石 丸 鐵 太 郎	弁護士
評 議 員	小 田 俱 義	公益財団法人神戸ファッション協会 会長
評 議 員	片 岡 徹	神戸大学大学院 医学研究科長・医学部長
評 議 員	小 山 喜 三	神戸市商店街連合会 会長
評 議 員	三 田 和 司	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 運輸部長
評 議 員	竹 内 由 美	生活協同組合コープこうべ 理事
評 議 員	富 田 英 樹	ネスレ日本株式会社 ステークホルダーリレーションズ室長
評 議 員	西 村 隆 治	灘五郷酒造組合 代表
評 議 員	前 野 博 司	神戸個人タクシー事業協同組合 理事長
評 議 員	榎 山 淳	日本放送協会 神戸放送局長
評 議 員	村 田 泰 男	神戸商工会議所 専務理事

以上 評議員 13 名

## (2) 理事・監事・顧問

平成 27 年 8 月 1 日現在

役 職	氏 名	所 属 団 体 及 び 役 職
会 長	小 柴 善 博	
副 会 長	奥 田 眞	神戸市観光・ホテル旅館協会 名誉会長
副 会 長	岩 田 弘 三	神戸商工会議所 副会頭
常務理事	小 泉 外 茂 男	
理 事	大和田 哲 也	全日本空輸株式会社 大阪支店 副支店長
理 事	加 藤 琢 二	神戸旅客船協会 会長
理 事	加 藤 久 雄	神戸市 産業振興局担当局長
理 事	加 藤 雄 次	株式会社 J T B 西日本 執行役員 神戸支店長
理 事	塩 島 孝	西日本旅客鉄道株式会社 執行役員 近畿統括本部 神戸支社長
理 事	渋谷 和 久	株式会社神戸新聞社 地域活動局長
理 事	當 谷 正 幸	一般社団法人有馬温泉観光協会 会長
理 事	中 内 仁	一般社団法人日本ホテル協会 大阪兵庫支部 理事
理 事	新 野 幸 次 郎	公益財団法人神戸都市問題研究所 理事長

監 事	大 淵 和 夫	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部長
監 事	林 峯 三	税理士

顧 問	石 森 秀 三	北海道大学 観光学高等研究センター特別招聘教授
顧 問	高 寄 昇 三	甲南大学 名誉教授
顧 問	田 辺 眞 人	園田学園女子大学 名誉教授

以上 理事 13 名、監事 2 名、顧問 3 名

### Ⅲ 定 款

#### 一般財団法人神戸国際観光コンベンション協会定款

##### 第1章 総 則

(名称)

第1条 本協会は、一般財団法人神戸国際観光コンベンション協会という。

(事務所)

第2条 本協会は、主たる事務所を兵庫県神戸市に置く。

(剰余金の分配禁止)

第3条 本協会は、剰余金の分配を行うことができない。

##### 第2章 目的及び事業

(目的)

第4条 本協会は、観光事業を国内外において推進するとともに、コンベンションの誘致・支援等の事業を行うことにより、神戸経済の発展と市民文化の向上、さらには国際交流及び国際親善に寄与することを目的とする。

(事業)

第5条 本協会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 観光の国内外での宣伝及び観光客の誘致・受け入れ
- (2) コンベンションの誘致及び推進
- (3) 公の施設の指定管理及びその他観光関連施設の管理運営等
- (4) フィルムオフィス
- (5) ポートピア81記念基金
- (6) 旅行業法に基づく旅行業
- (7) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

##### 第3章 資産及び会計

(基本財産)

第6条 本協会の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、本協会の基本財産とする。

2 基本財産は、本協会の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

(事業年度)

第7条 本協会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第8条 本協会の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長(第21条に規定する会長をいう。以下同じ。)が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間、備え置くものとする。

(事業報告及び決算)

第9条 本協会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 正味財産増減計算書
- (5) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号及び第4号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、監事による監査結果の報告を主たる事務所に5年間備え置くものとする。

## 第4章 評 議 員

(評議員の定数)

第10条 本協会に評議員12名以上16名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第11条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号。以下「一般法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

(任期)

第12条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

3 評議員は、第10条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬等)

第13条 評議員の報酬は、無報酬とする。

2 評議員には、その職務を行うために要する費用の支払いを行うことができる。

## 第5章 評 議 員 会

(構成)

第14条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(権限)

第15条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事並びに評議員の選任及び解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 評議員に対するその職務を行うために要する費用の支払いの基準
- (4) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認

- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分又は除外の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第16条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第17条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

第18条 評議員会の議長は、評議員会において互選する。

(決議)

第19条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 評議員に対するその職務を行うために要する費用の支払いの基準
- (3) 定款の変更
- (4) 基本財産の処分又は除外の承認
- (5) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第21条第1項に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

第20条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び出席した評議員の中から選出された2名が、前項の議事録に記名押印する。

## 第6章 役員等

(役員の数等)

第21条 本協会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 12名以上16名以内
- (2) 監事 2名以内

- 2 理事のうち1名を会長、2名を副会長、1名を常務理事とする。

- 3 前項の会長をもって一般法人法上の代表理事とし、常務理事をもって、一般法人法第197条において準用する一般法人法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第22条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 会長、副会長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本協会を代表し、その業務を執行する。

副会長は、会長を補佐する。

3 常務理事は、会長及び副会長を補佐し、理事会において別に定めるところにより、本協会の業務を分担執行する。

4 会長及び常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、理事の職務の執行を監査するとともに、法令で定めるところにより、監査報告を作成し、理事会で報告する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、本協会の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

3 監事は、理事会に出席するものとする。

(役員任期)

第25条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 欠員補充として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は、第21条第1項に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第26条 理事及び監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

第27条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

2 理事又は監事には、その職務を行うために要する費用の支払いを行うことができる。この場合の支給の基準については、評議員会の決議により別に定める。

(顧問)

第28条 本協会に、任意の機関として、5名以下の顧問を置くことができる。

2 顧問は、理事会の同意を得て会長が委嘱する。

3 顧問は、会長の諮問に応じて意見を述べ、又は会議に出席して意見を述べることができる。

4 顧問は、無報酬とする。

5 顧問には、その職務を行うために要する費用の支払いを行うことができる。

## 第7章 理 事 会

### (構成)

第29条 本協会に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

### (権限)

第30条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) 本協会の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長及び常務理事の選定及び解職

### (招集)

第31条 理事会は、会長が招集する。

2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、副会長が理事会を招集する。

### (議長)

第32条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。ただし、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、他の理事がこれに当たる。

### (決議)

第33条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般法人法第197条において準用する一般法人法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

### (議事録)

第34条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第8章 賛 助 会 員

### (賛助会員)

第35条 本協会に、賛助会員を置くことができる。

- 2 賛助会員は、本協会の目的に賛同し、これを援助する個人又は団体とする。
- 3 賛助会員は、本協会の資料及び情報の提供を受けることができる。
- 4 賛助会員に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

## 第9章 定款の変更及び解散

### (定款の変更)

第36条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第4条、第5条及び第11条についても適用する。

### (解散)

第37条 本協会は、基本財産の滅失による本協会の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

### (残余財産の帰属)

第38条 本協会が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）第5条第17号に掲げ

る法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第10章 公告の方法

(公告の方法)

第39条 本協会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

## 第11章 補 則

(委任等)

第40条 この定款は、主たる事務所に備え置くものとする。

2 この定款に定めるもののほか、本協会の運営に関する必要な事項は、理事会の決議を経て、会長が別に定める。

附 則

この定款は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この定款の変更は、平成26年10月14日から施行する。

別表 基本財産（第6条関係）

財産種別	場所・物量等
投資有価証券等	国債・地方債等 130,000千円

## IV 平成26年度事業報告

平成26年度は国内外における観光プロモーションの実施や国内外からの観光客の誘致やおもてなしに努めた結果、平成26年の行祭事・イベントを含めた神戸への観光入込客数は3,543万人、宿泊客数は過去最高の508万人を記録し、神戸観光プランの平成27年目標値である観光入込客数3,500万人、宿泊客数450万人を2年連続で超えた。また、観光庁に選定された「グローバルMICE戦略都市」として、積極的にコンベンションの誘致を行った。

### 1 事業関係

#### 1. 観光誘致宣伝事業

神戸への観光客誘致のため、市内の宿泊施設・観光施設や旅行会社等で構成される Feel KOBE 観光推進協議会及び神戸市観光・ホテル旅館協会等との連携を通じて、国内・海外に対して、誘致宣伝事業を推進した。

##### (1) 国内観光の誘致

###### ① プロモーション

###### (ア) 就航都市等でのプロモーション

神戸就航都市等で開催されるまつりへの参加に合わせて、旅行会社・マスコミを訪問し、神戸観光の旅行商品造成及び販売促進を働きかけるとともに、マスコミを通じての神戸観光情報の提供に努めた。特に平成26年度は新規就航した都市でのプロモーションを強化し、航空機やフェリーを利用した神戸への観光誘致を図った。

###### (就航都市等)

・平成26年 4月	大分	大分マスコミ等訪問
・平成26年 6月	宮城	仙台マスコミ等訪問
・平成26年 8月	茨城	「水戸黄門まつり」
・平成26年 8月	鳥取	「米子がいな祭」
・平成26年 8月	宮崎	「まつり宮崎」
・平成26年 9月	北海道	札幌マスコミ等訪問
・平成26年 9月	鳥取	「秋のBSSまつり」
・平成26年 10月	沖縄	那覇マスコミ等訪問
・平成26年 10月	宮城	「ソラ行け旅フェスタ」
・平成26年 11月	鹿児島	「おはら祭り」
・平成26年 12月	東京	羽田空港プロモーション
・平成27年 3月	茨城	茨城マスコミ等訪問

###### (日本開港五都市観光協議会)

・平成26年 4月	長崎	「長崎帆船まつり」
・平成26年 5月	神奈川	「横浜開港記念みなと祭」
・平成26年 8月	北海道	「函館港まつり」
・平成26年 8月	新潟	「新潟まつり」

(イ) 神戸セレクションとの連携

平成 26 年度から神戸のグルメや特産品を全国発信する取り組みである「神戸セレクション」販売会の会場において観光ブースを併設し、神戸の多様な魅力を一体的に発信するとともに、マスコミ訪問も併せて行い、神戸への誘客を図った。

- ・平成 27 年 2 月 広島 福屋八丁堀本店

(ウ) 他都市との連携

(京都・大阪・神戸観光推進協議会；三都物語)

京都市・大阪市との共同により、パンフレットを作成し、首都圏・九州・中国・北陸地区の旅行会社・マスコミの招聘及び観光キャラバンを実施した。

- ・平成 26 年 10 月 金沢キャラバン（ステージ PR・旅行会社訪問等）
- ・平成 26 年 11 月 首都圏・九州地区旅行会社（商品造成部門）招聘
- ・平成 27 年 2 月 首都圏・九州地区マスコミ招聘
- ・平成 27 年 3 月 首都圏・九州地区旅行会社（販売部門）招聘

(神戸・明石・姫路観光推進会議)

神戸・明石・姫路への旅行商品造成を促進するため、東京・福岡で旅行会社を対象にした観光セミナー及び商談会を開催するとともに、旅行会社への訪問営業を実施し、市内観光事業者と現地旅行会社とのマッチング機会の拡大に努めた。特に平成 26 年度は世界最大級の旅行博覧会「ツーリズム EXPO ジャパン」に出展し、国内外のユーザーへ情報発信を実施した。

- ・平成 26 年 9 月 福岡
- ・平成 26 年 9 月 東京
- ・平成 26 年 9 月 ツーリズム EXPO ジャパン 2014 出展

(エ) JRグループとの連携

JR 東日本及び JR 西日本と連携し、旅行会社への観光セミナーや観光キャラバン等を実施した。

- |               |        |                 |
|---------------|--------|-----------------|
| ・平成 26 年 10 月 | 福岡     | 九州エリア商談会・意見交換会  |
| ・平成 26 年 11 月 | 福岡     | 観光素材説明会         |
| ・平成 26 年 12 月 | 金沢     | 「列車で行こう関西へ！」    |
| ・平成 27 年 2 月  | 金沢     | 関西・北陸交流会        |
| ・平成 27 年 2 月  | 熊本・鹿児島 | 「九州新幹線で関西へ行こう！」 |

(オ) 旅連との連携

JTB 旅連と連携し、観光キャラバンや現地研修会を実施した。

- |               |    |                  |
|---------------|----|------------------|
| ・平成 26 年 8 月  | 愛知 | 名古屋キャラバン         |
| ・平成 26 年 9 月  | 兵庫 | 神戸・有馬地区 JTB 社員研修 |
| ・平成 26 年 10 月 | 福岡 | 福岡商談会            |
| ・平成 26 年 11 月 | 東京 | 首都圏キャラバン         |

② 滞在型観光の推進

(ア) 夜景観光の推進

市内のイルミネーションイベントを一体的に広報する「KOBE ロマンティックフェア」や 500 円で気軽に夜景が楽しめる「夜景バスツアー」を全国に PR し、滞在型観光の推進に努めた。

(イ) ウエディング観光の振興

ウエディングや観光に携わる事業者等で構成する「神戸ウエディング会議」に協賛し、ウエディング観光の振興を図った。

## (2) 教育旅行の誘致

### ① プロモーション

#### (ア) 訪問誘致活動

旅行会社等を訪問して誘致活動を実施した。特に、生徒数が最も多い首都圏をメインターゲットとして、旅行先を決定する学校側に直接 PR するため学校校長会への営業を行った。

- ・平成 26 年 6 月 千葉 校長会でのプレゼンテーション
- ・平成 26 年 6 月 埼玉 校長会でのプレゼンテーション
- ・平成 26 年 7 月 全国修学旅行研究大会（東京）での資料配布
- ・平成 26 年 9 月 北海道キャラバン（教育旅行受入施設同行）
- ・平成 26 年 11 月 関東修学旅行委員会（栃木）での資料配布
- ・平成 27 年 2 月 関東地区校長会でのプレゼンテーション

#### (イ) 教員等招聘事業

全国修学旅行研究協会や関東地区公立中学校修学旅行委員会の協力を得て、学校教員や旅行会社の教育旅行担当者を招聘し、教育旅行受入施設の実地視察や商談会等を実施した。

- ・平成 26 年 7 月 旅行会社招聘
- ・平成 26 年 8 月 学校関係者招聘

### ② PR ツールによる体験学習等の情報発信

旅行会社や学校関係者向けの神戸教育旅行ガイド「発見！体験！まるごと神戸」を全国に配布するなど情報発信を行った。

### ③ ワンストップ窓口の運営

旅行会社・学校関係者からの教育旅行の問合せに対して迅速で適確な対応を行うため、「教育旅行ワンストップ窓口」の運営を行った。

## (3) 国際観光の誘致

### ① 海外でのプロモーション

神戸への訪日旅行客増加に向け、市内の観光施設・宿泊施設とともに現地旅行会社・マスコミへの訪問誘致活動や、観光セミナー・商談会を実施し、旅行商品造成の促進を行った。特に平成 26 年度は、JNTO が主催するインセンティブ旅行関係者を対象としたセミナー・商談会（新たに 5 か国で開催）に参加し、ロンドンで開催された World Travel Market には初出展して欧米へのプロモーションを開始した。

- ・平成 26 年 6 月 インドネシア JNTO 主催インセンティブセミナー
- ・平成 26 年 7 月 台湾 JNTO 主催インセンティブセミナー
- ・平成 26 年 8 月 シンガポール・マレーシア JNTO 主催インセンティブセミナー
- ・平成 26 年 10 月 台湾（高雄・台中・台北）
- ・平成 26 年 11 月 タイ（バンコク）
- ・平成 26 年 11 月 ロンドン World Travel Market 出展
- ・平成 27 年 2 月 タイ JNTO 主催インセンティブセミナー

## ② 国内でのプロモーション

神戸の魅力を発信するため、海外から旅行会社を招聘し、神戸市内の視察や商談会を開催し、具体的な商品造成促進を図った。また、海外のメディアを招聘し、旅行雑誌等への露出を図ることで広くエンドユーザーへ神戸の魅力を発信した。

### (ア) 商談会

- ・平成 26 年 6 月 「ジャパン・アセアトラベルマート」(横浜)への参加  
旅行会社(タイ・ベトナム・インドネシア・マレーシア)
- ・平成 26 年 9 月 「VISIT JAPAN トラベルマート 2014」(東京)への参加  
旅行会社(インドネシア・シンガポール・マレーシア・ベトナム・フィリピン・台湾・アメリカ・イギリス・ノルウェー・スイス・イタリア・カナダ)
- ・平成 26 年 10 月 「東アジア・東南アジア合同商談会」(大阪)の開催  
旅行会社(韓国・台湾・香港・中国・シンガポール・タイ・ベトナム・フィリピン・マレーシア・インドネシア・スペイン)
- ・平成 26 年 12 月 「JNTO インセンティブショーケース」  
旅行会社(タイ・インドネシア・中国・マレーシア)

### (イ) 招聘事業

- ・平成 26 年 4 月 「GO! JAPAN」(香港の旅行雑誌)
- ・平成 26 年 6 月 「Majide Japan」(タイの旅行番組)
- ・平成 26 年 7 月 「Traveler's Companion」(タイの旅行雑誌)
- ・平成 26 年 10 月 東南アジア旅行会社招聘  
旅行会社(シンガポール・マレーシア・フィリピン・タイ・ベトナム)
- ・平成 26 年 10 月 東アジア旅行会社招聘  
旅行会社(中国・香港・台湾)
- ・平成 26 年 12 月 JNTO インセンティブ旅行グループ招請事業  
旅行会社(シンガポール)
- ・平成 26 年 12 月 外国特派員プレスツアー  
記者(中国・台湾・香港・シンガポール・ドイツ・スイス・デンマーク)

## (4) 観光情報の発信

### ① 情報誌の発行

#### (ア) 観光情報誌「Feel KOBE～神戸物語～」

中部圏、近畿圏、中国圏、四国圏などの鉄道・長距離バス待合所、高速道路サービスエリア、道の駅などで配布を行い、広域での観光情報の提供に努めた。(各 10 万部)

- ・平成 26 年 9 月 第 67 号「やっぱり、神戸。」  
特集：秋の神戸でお散歩ランチ
- ・平成 26 年 11 月 第 68 号「やっぱり、神戸。」  
特集：第 20 回神戸ルミナリエ、夜の KOBE をあそぼう

#### (イ) 神戸観光ガイドブック「神戸観光ガイド」

従来のポケットサイズからA4版に変更し、内容も見やすく刷新した。(日本語・英語・韓国語・中国語(繁体字・簡体字)・タイ語)

#### (ウ)「夜景ガイド」

英語・韓国語・中国語(繁体字・簡体字)版を新たに作成し、海外への神戸夜景の情報発信を強化した。

#### ② 情報サイトの運営

神戸公式観光サイト「Feel KOBE」を運営し、多言語(日本語・英語・韓国語・中国語(簡体字・繁体字))で神戸観光の魅力を発信した。特に平成26年度は、コンテンツの充実を図るとともに、現地のニーズに合わせた中国語(繁体字)サイトのリニューアルを図るなど、アクセス件数のさらなる増加を図った。

## 2. 観光客受入事業

### (1) 観光案内所の運営

市内3か所で観光案内所(総合インフォメーションセンター、新神戸駅観光案内所、北野観光案内所)を運営し、観光及び市政情報の提供を行った。

・利用者数 331,640人(総合インフォメーション167,823人、新神戸122,397人、北野41,420人)

### (2) クルーズ客船の受入れ

外国客船については、神戸港発着のクルーズが10回催行されたことなどにより、震災後最多となる32隻が入港した。このようななか、クルーズ客船を「おもてなし」の心でお迎えするため、神戸市客船誘致協議会と連携し、歓迎行事の実施や臨時観光案内所等の開設を行うとともに、地元商店街や市内観光施設、旅行会社等とも一体となって受入れを行った。

・外国客船歓迎行事 のべ16回、臨時観光案内所開設 のべ32日

### (3) 観光客の利便性及び回遊性の向上

#### ① 「神戸街遊券」の発行

市内58の主要観光施設の入館料等として使用できる観光クーポン券「神戸街遊券」を発行するとともに、スルッとKANSAI協議会の「神戸街めぐり1dayクーポン」に参画し、観光客の利便性と回遊性の向上を図った。

・「神戸街遊券」販売実績 19,923冊

・「神戸街めぐり1dayクーポン」販売実績 19,831冊

#### ② 「シティー・ループバス」1日乗車券の販売

都心部の観光スポットの回遊性向上を支援するため、「シティー・ループバス」1日乗車券を観光案内所等で販売した。

・販売実績 大人 24,594枚、小人 695枚

### ③ KOBE Free Wi-Fi カードの配布

神戸市が整備した外国人観光客向け公衆無線 LAN サービス「KOBE Free Wi-Fi」が利用できるカードを、市内観光案内所や客船入港時の臨時観光案内所等で配布し、観光客の利便性向上を図った。

・配布枚数：約 14,000 枚

### ④ 観光マップ等の配布

観光客が市内観光をスムーズに行えるよう、多言語（日本語・英語・韓国語・中国語（簡体字・繁体字））の観光ガイドマップやガイドブック等を配布するとともに、異人館・博物館・クルーズ船等の観光施設等の割引特典が付いた「ウエルカムクーポン」を観光案内所やホームページにおいて提供した。

## （4）おもてなしの向上

### ① おもてなし研修の実施

#### （ア）観光タクシー乗務員に対する研修の実施

利用者へのサービス向上のため、観光タクシー乗務員を対象に神戸観光の情報提供と外国人観光客への接遇に関する研修会を実施した。

・平成 27 年 3 月 25 日（28 名参加）

#### （イ）観光関連従事者に対する研修の実施

観光関連従事者のおもてなしの意識のさらなる向上を図るため、神戸の代表的な観光地の一つである北野地区の観光関連従事者を対象に、「おもてなし接遇研修会」を実施した。

・平成 27 年 3 月 11 日（15 名参加）

### ② 「KOBE 観光の日」関連事業の実施

KOBE 観光の日（平成 26 年 10 月 3 日）・KOBE 観光ウィーク（平成 26 年 10 月 3 日～13 日）を PR するキャンペーンを市内 3 か所で実施した。

・平成 26 年 10 月 3 日

また、その直前に、市民・地域の方々の協働により観光地を美化することを目的とした「神戸観光地クリーンアップ&市内見学ツアー」を実施した。

・平成 26 年 9 月 27 日（56 名参加）

## 3. 観光推進事業

神戸観光を推進するため、「神戸ルミナリエ」をはじめ様々な行事やイベントに協賛・協力するとともに、開催にたずさわった。

### （1）第 20 回神戸ルミナリエ

- ・開催日 平成 26 年 12 月 4 日～15 日（12 日間） 来場者 3,444,000 人
- ・会場 旧居留地・東遊園地
- ・「神戸ルミナリエ・ハートフルデー」

ハンディキャップのある方にゆっくりと鑑賞していただくため、12月2日に東遊園地の全作品を特別に点灯し、約14,500人(うち車椅子3,800台、介護者含む)の方々が来場した。

## (2) 各種イベントの実施・協賛及び協力

- ① インフィオラータこうべ2014
  - ・期間 平成26年4月26日～5月6日(各会場2日～4日)
  - ・来場者 890,800人(全会場)
  - ・会場 三宮あじさい通り、元町六門商店街、北野坂、北神戸田園スポーツ公園、神戸ハーバーランド、三井アウトレットパークの6会場(開催日順)
- ② 第33回須磨大茶会
  - ・開催日 平成26年4月29日
  - ・来場者 1,360人
  - ・茶席 須磨寺本坊席、寿楼席
- ③ 第44回神戸まつり サンバストリート
  - ・開催日 平成26年5月18日
  - ・来場者 216,300人(ステージ行事全体合計数)
  - ・会場 中央区京町筋
  - ・出演者 市内外サンバチーム 7団体 840名
- ④ サンバフェスタKOBÉ 2014
  - ・開催日 平成26年7月20日
  - ・来場者 約8,900人
  - ・会場 メリケンパーク(「第13回Kobe Love Port・みなとまつり」会場内)
  - ・出演者 市内外のサンバチーム 6団体 260名

※ その他、「第4回神戸マラソン」をはじめ、「2015 南京町春節祭」、「第23回摩耶山俳句大会」、「第65回 豊公を偲ぶ有馬大茶会」、「六甲山ウィンターフェスティバル」など、各種イベントに協賛及び協力した。

## 4. フィルムオフィス事業

「神戸フィルムオフィス」を中心に関係機関と連携を図りながら神戸での映画・テレビ(ドラマ・情報番組)などの撮影支援ならびに撮影誘致活動を行い、神戸のまちの魅力を広く発信した。

### (1) 撮影支援活動

- ① 撮影支援件数  
映画9件、テレビドラマ13件、その他(テレビ番組・CM等)89件  
合計111件
- ② 主な支援作品  
(ア) 映画
  - ・「寄生獣」「寄生獣 完結編」(六甲ライナー アイランドセンター駅、六甲アイランド イベント広場、荒田公園駐車場 他)
  - ・「神戸在住」(神戸山手大学、東遊園地、北野町、南京町、旧居留地 他)
  - ・「日本のいちばん長い日」(神戸大学、神戸税関、旧乾邸、御影公会堂、兵庫県公館、

六甲幼稚園 他)

・「HERO」(兵庫県公館、海岸ビルヂング)

(イ) テレビドラマ

・NHK特集ドラマ「LIVE! LOVE! SING! ～生きて愛して歌うこと」  
(御影公会堂、石屋川公園、JR三ノ宮駅 他)

・阪神淡路大震災 20 年ドラマ「二十歳と一匹」(灘丸山公園、元町商店街、JR元町駅前、  
南京町、再度公園 他)

・「ORANGE ～1.17 命懸けで闘った消防士の魂の物語～」(東灘消防署・須磨消防署、  
市民防災総合センター、兵庫県庁、東遊園地、ピーナスブリッジ 他)

・「上流階級～富久丸百貨店外商部～」(大丸神戸店、KIITO (デザイン・クリエイ  
ティブセンター神戸)、元町商店街 他)

(ウ) テレビ番組

・「ガイアの夜明け」(ピーナスブリッジ、高浜岸壁 他)

・「王様のブランチ」(高浜岸壁、北野町広場)

・「とんねるずのみなさんのおかげでした」(中突堤、南京町、生田神社 他)

・「モヤモヤさまぁ～ず 2」(高浜岸壁)

③ ロケーション・ハンティング助成

具体的な映画・ドラマの企画をもって、ロケーション・ハンティングのために神戸を訪  
れる映像制作者に対して、旅費の一部を助成した。(助成件数 3 件)

(2) 撮影誘致活動

① 国内映像作品の誘致

ジャパン・フィルムコミッション主催の「全国ロケ地フェア 2015」に出展し、国内の  
映像制作者に対して、ロケ地としての神戸の魅力や充実した撮影支援内容を積極的にPR  
した。

会期 平成 27 年 1 月 29 日 (木)

会場 東京・産業会館 (BIZ 新宿) 多目的ホール

② 海外映像作品の誘致

ロケ地としての神戸の魅力や充実した撮影支援内容を海外の映像制作者に積極的にPR  
するため、国際映画祭見本市等に出展・参加を行った。

(ア) 韓国

「釜山国際フィルムコミッション映画産業博覧会 (BIFCOM) 2014」への出展・参加

会期 平成 26 年 10 月 5 日～8 日

会場 釜山・海雲台 BEXCO (釜山エキシビション&コンベンションセンター)

(イ) 日本

「東京国際映画祭コンテンツマーケット (TIFFCOM) 2014」への出展・参加

会期 平成 26 年 10 月 21 日 (火) ～ 23 日 (木)

会場 東京・お台場 ホテルグランパシフィック LE DAIBA

(ウ) アメリカ

「AFCI Locations Show 2015」への参加

会期 平成 27 年 3 月 5 日～7 日

会場 ロサンゼルス ハイアットリージェンシー センチュリープラザ

(3) その他の活動

神戸で撮影された映画のロケ地マップを作成・配布するとともに、ロケ地ツアーの実施やプ  
レミア試写会の開催など、映像作品を活用した観光客誘致に取り組んだ。

## 5. コンベンション誘致推進

### (1) 誘致プロモーション

#### ① 国際・国内会議・展示会の誘致活動

医学系・工学系等の国際・国内会議をはじめ、大会・展示会の神戸開催を働きかけるため、学会、各種団体、大学、企業の国内外の主催者に対し、神戸での開催時のメリット、特色をアピールし誘致活動を行った。

「神戸コンベンション誘致協議会」としては、神戸の施設に対する空き状況の問い合わせ等に対しては、窓口を一本化して対応している。また通常の連絡会を拡大し、東京の営業担当も加えた連絡会を開催した。

また、平成 24 年度に創設した参加者 1,000 人以上の大型国内学会向けの補助制度を本年度も引き続き実施をした。

- ・神戸コンベンションプランナーズガイド (1,500 部)

- ・神戸コンベンション誘致協議会

  - 協議会開催

    - 平成 26 年 7 月 17 日、10 月 28 日、12 月 8 日(東京営業所長会議)

    - 平成 27 年 3 月 17～19 日

      - 情報処理学会第 77 回全国大会にて神戸案内ブースを設営し PR を行った。

- ・国内会議補助(6 件)

  - 平成 26 年 6 月 19 ～21 日 第 19 回日本緩和医療学会学術大会

  - 平成 26 年 7 月 2 ～ 4 日 第 41 回日本毒性学会学術年会

  - 平成 26 年 7 月 12 ～13 日 第 20 回日本看護診断学会学術大会

  - 平成 26 年 8 月 1 ～ 4 日 第 23 回全国盲ろう者大会

  - 平成 26 年 10 月 18 ～19 日 第 57 回秋季日本歯周病学会学術大会

  - 平成 26 年 11 月 7 ～ 9 日 日本教育心理学会第 56 回総会

- ・「MEET IN KOBE 21」PR 事業・神戸セミナー開催

  - コンベンション主催者が一堂に集まる「国際ミーティングエキスポ (IME2014)」の機会を活用し神戸プロモーションイベントを開催。首都圏での神戸の情報提供の強化を図り、神戸への大型 MICE の誘致を行った。

    - 平成 26 年 12 月 10 日、東京国際フォーラム、招待者 45 名

#### ② 国際ミーティングエキスポ (IME) 等への参加

国際ミーティングエキスポ (IME) への出展参加のほか、海外見本市等で資料による PR を行った。さらに、ホテル、PCO (会議運営代行業者)、旅行代理店等と協調して誘致を図るとともに、コンベンション開催主催者への個別訪問と協議を行った。

- ・第 24 回 IME への出展

  - 平成 26 年 12 月 9～10 日、会場：東京国際フォーラム、来場者 3,452 人

- ・IMEX (海外見本市) への参加

  - 平成 26 年 5 月 20～22 日 フランクフルト 来場者 8,883 人

  - 平成 26 年 10 月 14～16 日 ラスベガス 来場者 10,354 人

#### ③ 海外キーパーソン招聘 (Meet Japan 2015)

- ・海外コンベンションキーパーソン視察受入

  - 平成 27 年 3 月 2 日～3 日 2 団体 2 名

- ・海外コンベンションキーパーソン商談会 (東京会場)

  - 平成 27 年 3 月 6 日 商談者 9 団体

#### ④ 広報・宣伝

神戸のコンベンション情報を国内外の開催団体及び広く市民に発信するため、様々な媒体を使って情報提供を行った。

- ・大型会議（15 会議）を対象に、神戸空港、市民広場駅、ポートライナー車両内にウエルカム案内を掲出し、参加者へのおもてなしをするとともに、市民に会議開催を告知した。
- ・第 102 回日本泌尿器科学会総会（4 月）、第 87 回日本整形外科学会学術総会（5 月）、第 59 回日本透析医学会学術集会・総会（6 月）、第 15 回日本アジア・オセアニア放射線学会（AOCR2014）（9 月）、第 22 回日本消化器関連学会週間（JDDW2014）（10 月）、第 30 回日本環境感染学会総会（2 月）、第 29 回日本医学会総会 2015 関西 公開展示（3 月）の歓迎バナーをポートピア大通りに掲示し大会関係者へのおもてなしを表現するとともに、市民に会議開催を告知した。
- ・花時計ギャラリーに「コンベンションニュース」を掲示し、コンベンションの PR を行った。（平成 26 年 4 月、6 月、9 月、10 月、11 月、平成 27 年 3 月実施）
- ・『コンベンションカレンダー』を通じて、開催情報を周知した。

#### (2) MICE 誘致の推進

従来の企業のミーティング（M）、コンベンション（C）、展示会・見本市（E）に加えて、インセンティブツアー（I）の誘致の取り組みを行った。

海外については、アジアを中心に現地セミナー・商談会へ参加し、国内では FAM ツアーを実施した。平成 26 年度は JNTO 主催のインセンティブセミナーへ参加し、従来から力を入れてきた東アジアに加え、訪日観光客の増加が著しいインドネシア・マレーシア・シンガポールにおけるプロモーションを強化した。

##### ① 誘致ツール等の作成

- ・インセンティブ助成要綱の多言語版作成
- ・インセンティブ誘致向け特集ページを開設

##### ② プロモーションの実施・商談会への参加

- ・平成 26 年 6 月 3 日～4 日  
東京：JNTO 主催ジャパン・アセアントラベルマート商談会参加
- ・平成 26 年 6 月 23 日～27 日  
インドネシア：JNTO 主催インセンティブセミナー参加
- ・平成 26 年 7 月 8 日～10 日  
台湾：JNTO 主催インセンティブセミナー参加
- ・平成 26 年 8 月 6 日～10 日  
シンガポール：JNTO 主催インセンティブセミナー参加  
マレーシア：JNTO 主催インセンティブセミナー参加
- ・平成 26 年 9 月 24 日～26 日  
東京：VISIT JAPAN トラベルマート 2014
- ・平成 26 年 10 月 16 日  
大阪：大阪・神戸共催・アジア合同商談会の実施
- ・平成 26 年 10 月 20 日～24 日  
台湾：高雄・台中・台北にて神戸セミナー及び商談会実施
- ・平成 26 年 11 月 1 日～9 日  
ロンドン：World Travel Market 2014（WTM2014）に参加
- ・平成 26 年 11 月 17 日～20 日  
タイ：バンコクにて神戸セミナー及び商談会実施

- ・平成26年12月3日～6日  
中国：深圳 SEAGGRAPH Asia 2014にて次期開催地「神戸」をPR
- ・平成26年12月10日～13日  
東京：JNTO 主催インセンティブショーケースに参加
- ・平成27年2月26日  
タイ：JNTO 主催インセンティブセミナー・タイ国際旅行フェア(TITF)に参加
- ・クォークマター（第25回超相対論的原子核衝突国際会議）2015の誘致活動
- ・One Young World Summit 2016の誘致活動
- ・国際ソロプチミストアメリカ連盟大会の誘致活動

③ キーパーソン・エージェント等の招聘

- ・平成26年10月15日～17日  
アジア合同商談会にて招聘  
旅行社：シンガポール4社、マレーシア4社、タイ5社、フィリピン5社、ベトナム8社、中国7社、香港5社、台湾5社
- ・平成26年12月11日～13日  
JNTO 主催インセンティブショーケース付帯事業にて招聘  
旅行社：シンガポール3社
- ・平成26年12月19日  
関西地域振興財団主催 外国特派員神戸観光取材  
記者：10名

④ インセンティブツアー誘致実績等

国内外からのインセンティブツアー(報奨・研修旅行)で、神戸市観光・ホテル旅館協会加盟の宿泊施設に1泊以上して、レセプション・表彰式の開催及び観光(飲食・ショッピングを含む)を実施する70名以上※1のグループを対象。

バス助成・ウエルカムボードの掲出、スマイル神戸の派遣、アトラクションの派遣などの支援を実施した。

※1 1企画あたりの宿泊人数70名以上のグループ

【支援実績】

- ・平成26年 8月20日～10月31日 保険会社(台湾)
- ・平成26年 9月26日～9月30日 会計士事務所(台湾)

(3) 主催者・事務局サポート

① 「MEET IN KOBE 21」の展開

国際会議の神戸への誘致促進を図るため、コンベンション関係団体と連携し、補助金をはじめ、20項目からなる各種サービスを提供する「MEET IN KOBE21」を展開した。

- ・VIPクーポン 15,000部作成

- ・「MEET IN KOBE 21」適用会議の実績 (単位：件)

項目	平成26年度	平成25年度	増△減
中・小規模	14	19	△5
大規模	13	11	2
	27	30	△3

※ 大規模会議：参加者300名以上、参加国5ヵ国以上、海外参加者100名以上、会期3日以上

② 学会市民公開講座開催についての開催支援

- ・平成 26 年 7 月 5 日 第 41 回日本毒性学会学術年会
- ・平成 26 年 9 月 21 日 第 54 回日本臨床検査技師近畿支部医学検査学会
- ・平成 26 年 11 月 16 日 第 68 回日本臨床眼科学会
- ・平成 26 年 12 月 6 日 日本性感染症学会第 27 回学術大会
- ・平成 27 年 1 月 10 日 第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会
- ・平成 27 年 3 月 20 日 第 120 回日本解剖学会総会・第 92 回日本生理学会大会合同大会

#### (4) 自主事業の企画・運営

##### ①「テクノオーシャン 2014」開催

海洋の科学技術に関する総合的なコンベンションとして、日本で唯一定期的（隔年）に開催している「テクノオーシャン」について、実行委員会を組織し開催を行った。

- ・開催月日 平成 26 年 10 月 2～ 4 日
- ・開催会場 神戸国際展示場 2 号館
- ・参加者数 9,370 名

##### ②「第 8 回災害対策セミナー in 神戸」の開催

「阪神淡路大震災」からの復興の過程で学んだ経験や教訓を最新の知識・情報とともに次世代や国内外の人々に伝えていくことを目的に、地域防災シンポジウムや防災関係団体の各種セミナーを開催した。また、特別企画として、パネルディスカッション「減災・防災に人工衛星が果たす役割」を企画実施した。

- ・会 期 平成 27 年 1 月 22 ～ 23 日
- ・会 場 神戸国際会議場
- ・来場者 1,543 名
- ・パネルディスカッション  
 コーディネーター 人と防災未来センター センター長 河田 恵昭 氏  
 パネリスト 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構  
 衛星利用推進センター 防災システム室 戸田 謙一 氏  
 独立行政法人 理化学研究所 計算科学研究機構  
 総合防災・減災研究ユニット ユニットリーダー 堀 宗朗 氏

##### ③「第 30 回宇宙技術および科学の国際シンポジウム (ISTS) 兵庫・神戸大会地元事業」の実施

平成 27 年 7 月に神戸で開催が決定している「第 30 回 ISTS」について兵庫県・神戸市が主体となって行う地元主催事業の実行委員会事務局業務を担い、産業連携事業、教育事業、市民事業を実施した。

## 6.コンベンション施設の管理運営

神戸国際会議場及び神戸国際展示場の運営については、コンベンション開催による地域の活性化に向けた取り組みをはじめ、日本コンベンションサービスや神戸ポートピアホテルとの連携による営業力の強化及び快適で安全にご利用いただける施設の整備などにより、利用者へのサービス向上に努めた。

### (1) 利便性向上と営業の取組み

平成 25 年度に会議場と展示場の事務所を 1 ヶ所に統合し、会場空き状況を把握する

台帳の一本化を行い、効率的な予約管理と会議場・展示場の連動利用を推進してきた。

加えて平成 26 年度は、神戸ポートピアホテルと定期的にミーティングを行なうことにより連携を深め、誘致段階からのホテルとの連携による一体的な営業を行なった。

これらの結果、平成 26 年度中に会議場・展示場に誘致することができた会議、展示会の件数は、昨年度を 13 件上回る 86 件となった。

## (2) 神戸コンベンションセンター協議会事業の展開

平成 27 年 3 月 28 日から 4 月 5 日に開催された「第 29 回医学会総会 2015 関西 一般公開展示」のサテライト会場となった市民広場において歓迎バナーを掲出した。また、2014 年 7 月に開催された国際会議には、開催期間中にご利用出来る、ポートライナーの乗車がお得になる「おもてなし乗車証」を主催者へご提供し、コンベンションによる地域の活性化に寄与した。

## (3) 施設の維持管理・機能向上に向けた取り組み

展示場では昨年度に引き続き 2 号館の外壁タイル補修に加え 1 号館南面の外壁塗装補修を行なった、また会議場では混信することのあった 5 階会議室の音響設備更新、メインホールのプロジェクター移設などを実施した。

## (4) 利用実績

### ① 神戸国際会議場の利用実績

項 目		平成 26 年度	平成 25 年度	増△減
件 数 (件)	国際会議	33	35	△2
	国内会議	200	211	△11
	合 計	233	246	△13
参加のべ人員 (人)	国際会議	269,401	86,390	183,011
	国内会議	79,042	99,623	△20,581
	合 計	348,443	186,013	162,430

### ② 神戸国際展示場の利用実績

項 目	平成 26 年度	平成 25 年度	増△減
件 数 (件)	132	134	△2
日 数 (日)	285	260	25
参加のべ人員 (人)	957,179	681,815	275,364

## 7. 観光関連施設の管理・運営

### (1) 有馬温泉 4 施設の管理・運営

指定管理者として有馬の外湯「金の湯」(含鉄ナトリウム塩化物強塩高温泉)と「銀の湯」(炭酸泉・ラジウム泉)に加え、「有馬の工房」(有馬温泉観光交流センター)と有馬の歴史を紹介する資料館「太閤の湯殿館」の 4 施設の管理運営を行い、利用者へのサービス向上を図るとともに、観光客の回遊性、利便性の向上に努めた。

なお、「銀の湯」については、平成 26 年 8 月 20 日より神戸市の改修工事のため休館しており、今秋頃にオープンする予定です。

利用実績

(単位：人)

項 目	平成 26 年度	平成 25 年度	増△減
金の湯	314,168	275,598	38,570
銀の湯	41,561	111,066	△69,505
有馬の工房 ( )内は有料入場者数	80,818 (1,318)	80,475 (1,437)	343 (△119)
太閤の湯殿館	15,176	14,173	1,003

(2) 萌黄の館の管理・運営

北野観光の核として国指定重要文化財である「萌黄の館」を民間所有者から借り受けて公開し、隣接する「風見鶏の館」とも連携をとりながら、北野を訪れる観光客へのサービス向上を図った。

利用実績

(単位：人)

区 分	平成26年度	平成25年度	増△減
有 料	142,437	152,893	△10,456
無 料	35,455	36,921	△ 1,466
合 計	177,892	189,814	△11,922

(3) 須磨海浜水族園の管理・運営

須磨海浜水族園では、共同事業体（代表企業：㈱ウエスコ、構成企業：㈱名鉄インプレス、㈱アクアート、(一財)神戸国際観光コンベンション協会）の構成団体の一員として、民間企業と共に、長年蓄積してきた施設の管理・運営ノウハウを発揮し、利用者にサービス提供を行った。

8. ポートピア 81 記念基金による補助事業

国際交流と地域経済・文化の発展向上を目的として、「第 87 回日本整形外科学会学術総会」、「第 59 回日本透析医学会学術集会・総会」、「第 22 回日本消化器関連学会週間」などの国際会議等への補助を行った。

補助件数 26 件      補助額 47,386,664 円

## 2 事業別収支計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日、単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
観光事業収入	59,592,569	観光事業費	127,751,396
フィルムオフィス事業収入	37,875,000	フィルムオフィス事業費	39,751,903
観光案内所事業収入	87,357,911	観光案内所事業費	87,357,911
コンベンション推進事業収入	111,864,509	コンベンション推進事業費	108,902,963
アマゾン館事業収入	262,286,456	アマゾン館事業費	251,335,656
第3展示場事業収入	758,881,240	第3展示場事業費	788,881,240
金・銀の湯等事業収入	246,628,025	金・銀の湯等事業費	220,130,938
観光付帯事業収入	234,713,286	観光付帯事業費	202,663,785
会議場・展示場事業収入	1,224,369,263	会議場・展示場事業費	1,114,765,990
ポ-トビ°781記念基金事業収入	53,386,664	ポ-トビ°781記念基金事業費	53,386,664
管理運営事業収入	50,175,235	特定資産引当金	45,847,200
		管理費	71,578,406
当期収入合計 (A)	3,127,130,158	当期支出合計 (C)	3,112,354,052
前期繰越収支差額	437,533,621	当期収支差額 (A) - (C)	14,776,106
収入合計 (B)	3,564,663,779	次期繰越収支差額 (B) - (C)	452,309,727

### 3 正味財産増減計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日、単位：円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	6,890
基本財産受取利息	6,890
② 特定資産運用益	23,697,531
特定資産受取利息	23,697,531
③ 受取会費	2,444,000
賛助会員受取会費	2,444,000
④ 事業収益	1,826,567,308
コンベンション推進事業収益	6,665,038
アマゾン館事業収益	41,286,456
第3展示場事業収益	76,881,240
金・銀の湯等事業収益	242,652,025
観光付帯事業収益	234,713,286
会議場・展示場事業収益	1,224,369,263
⑤ 受取補助金等	207,657,382
観光事業受取補助金	18,100,000
コンベンション推進事業受取補助金	102,199,471
観光案内所事業受託収益	87,357,911
⑥ 受取負担金	83,343,569
観光事業受取負担金	41,492,569
フィルムオフィス事業受取負担金	37,875,000
金・銀の湯等事業受取負担金	3,976,000
⑦ 受取寄付金	53,386,664
受取寄付金振替額	53,386,664
⑧ 雑収益	37,741,814
受取利息	23,805,221
有価証券運用益	13,715,000
その他収益	221,593
経常収益計	2,234,845,158
(2) 経常費用	
① 事業費	2,035,444,834
観光事業費	124,507,430
フィルムオフィス事業費	39,010,243

科 目	金 額
観光案内所事業費	86,178,287
コンベンション推進事業費	103,365,407
アマゾン館事業費	9,335,656
第3展示場事業費	22,723,647
金・銀の湯等事業費	218,556,538
観光付帯事業費	199,574,523
会議場・展示場事業費	1,110,637,306
ポートピア81記念基金事業費	53,386,664
減価償却費	68,169,133
② 管理費	96,073,691
管理費	69,219,018
減価償却費	312,973
退職給付費用	26,541,700
經常費用計	2,131,518,525
評価損益等調整前当期經常増減額	103,326,633
特定資産評価損益等	39,203,000
投資有価証券評価損益等	161,193,196
評価損益等計	200,396,196
当期經常増減額	303,722,829
2. 經常外増減の部	
(1) 經常外収益	
經常外収益計	0
(2) 經常外費用	
經常外費用計	0
当期經常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	303,722,829
一般正味財産期首残高	1,317,164,275
一般正味財産期末残高	1,620,887,104
II 指定正味財産増減の部	
① 特定資産運用益	9,446,026
特定資産受取利息	9,446,026
② 一般正味財産への振替額	△ 53,386,664
一般正味財産への振替額	△ 53,386,664
当期指定正味財産増減額	△ 43,940,638
指定正味財産期首残高	1,294,940,084
指定正味財産期末残高	1,250,999,446
III 正味財産期末残高	2,871,886,550

## 4 貸借対照表

(平成27年3月31日現在, 単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	319,609,643	未払金	331,296,277
未収金	63,241,544	買掛金	758,631
売掛金	178,035,250	前受金	25,162,090
前払金	1,903,503	預り金	16,999,517
立替金	2,032,904	預り保証金	49,500,000
有価証券	312,175,795	未払消費税	22,338,300
商品材料	417,441	未払法人税	10,144,417
保証金	31,510,320	短期借入金	903,000,000
短期貸付金	3,000,000	流動負債合計	1,359,199,232
流動資産合計	911,926,400	2. 固定負債	
2. 固定資産		退職給付引当金	453,590,800
(1) 基本財産		固定負債合計	453,590,800
投資有価証券	130,000,000	負債合計	1,812,790,032
基本財産合計	130,000,000		
(2) 特定資産		III 正味財産の部	
退職給付引当資産	453,590,800	1. 指定正味財産	
減価償却引当資産	372,742,500	寄付金	1,250,999,446
ポ-ビ781記念基金	1,120,999,446	指定正味財産合計	1,250,999,446
特定資産合計	1,947,332,746	(うち基本財産への充当額)	(130,000,000)
(3) その他固定資産		(うち特定資産への充当額)	(1,120,999,446)
建 物	1,072,582,811	2. 一般正味財産	1,620,887,104
什器備品	2,279,534	(うち基本財産への充当額)	(0)
投資有価証券	2,000,000	(うち特定資産への充当額)	(372,742,500)
コンション推進積立資産	124,070,000	正味財産合計	2,871,886,550
修繕積立資産	494,485,091	負債及び正味財産合計	4,684,676,582
その他固定資産合計	1,695,417,436		
固定資産合計	3,772,750,182		
資産合計	4,684,676,582		

5 財産目録

(平成27年3月31日現在, 単位: 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産		流動負債	
現金預金		未払金	
現金手許有高	3,773,997	神戸市 納付金他	331,296,277
普通預金三井住友銀行他	315,835,646	買掛金	
未収金		神戸市他	758,631
神戸市 負担金収入他	63,241,544	前受金	
売掛金		(株)ワールド 展示場使用料他	25,162,090
(株)ローソン 展示場使用料他	178,035,250	預り金	
前払金		職員からの源泉所得税他	16,999,517
(株)OMこうべ4月分事務所賃料他	1,903,503	預り保証金	
立替金		ｼﾝｴｰﾌﾞｽﾞ (株)他 営業保証金	49,500,000
神戸財刊I組織委員会	2,032,904	未払消費税	
有価証券		神戸税務署	22,338,300
MMF 大和証券他	312,175,795	未払法人税等	
商品材料		神戸税務署他	10,144,417
販売用商品	417,441	短期借入金	
保証金		三井住友銀行 神戸公務部	903,000,000
神戸市 指定管理履行保証金	31,510,320	流動負債合計	1,359,199,232
短期貸付金		固定負債	
ｺﾝﾊﾞｰｼﾞｮﾝ開催準備貸付金	3,000,000	退職給付引当金	453,590,800
流動資産合計	911,926,400	固定負債合計	453,590,800
固定資産			
基本財産			
投資有価証券			
第510回国庫短期証券他	130,000,000		
基本財産合計	130,000,000		
特定資産			
退職給付引当資産			
MMF 他	453,590,800		
減価償却引当資産			
ｲﾝﾌﾗ-ｺｰﾎﾟﾚｰﾄ-ｱﾝﾄﾞ-ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ債他	372,742,500		
ポートピア81記念基金			
三井住友銀行信託受益権他	1,120,999,446		
特定資産合計	1,947,332,746		
その他固定資産			
建物			
第3展示場	697,393,971		
水族園 マリン館他	375,188,840		
什器備品			
貸出用プロジェクター他	2,279,534		
投資有価証券			
(株)神戸商工貿易センター株式	2,000,000		
ｺﾝﾊﾞｰｼﾞｮﾝ推進積立資産			
ﾘﾌﾘｯｼ-ｱﾝﾄﾞ-ｶﾝﾊﾞｰｼﾞｮﾝ債他	124,070,000		
修繕積立資産			
国際金融公社債他	494,485,091		
その他固定資産合計	1,695,417,436		
固定資産合計	3,772,750,182	負債合計	1,812,790,032
資産合計	4,684,676,582	正味財産	2,871,886,550

## 6 事業別収入明細書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日, 単位: 円)

	収入合計	内 訳			
		事業収入	受託収入	補助金収入	その他収入
観光事業収入	59,592,569	41,492,569	0	18,100,000	0
フィルムオフィス事業収入	37,875,000	37,875,000	0	0	0
観光案内所事業収入	87,357,911	0	87,357,911	0	0
コンベンション推進事業収入	111,864,509	6,665,038	0	102,199,471	3,000,000
アマゾン館事業収入	262,286,456	41,286,456	0	0	221,000,000
第3展示場事業収入	758,881,240	76,881,240	0	0	682,000,000
金・銀の湯等事業収入	246,628,025	235,178,846	0	0	11,449,179
観光付帯事業収入	234,713,286	234,713,286	0	0	0
会議場・展示場事業収入	1,224,369,263	1,214,369,263	0	0	10,000,000
ホートビ°781記念 基金事業収入	53,386,664	53,386,664	0	0	0
管理運営事業収入	50,175,235	0	0	0	50,175,235
合 計	3,127,130,158	1,941,848,362	87,357,911	120,299,471	977,624,414

## 7 事業別支出明細書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日, 単位:円)

	支出合計	内 訳			収支差額
		人件費	物件費	材料費	
観光事業費	127,751,396	72,227,221	55,524,175	0	△ 68,158,827
フィルムオフィス事業費	39,751,903	12,193,908	27,557,995	0	△ 1,876,903
観光案内所事業費	87,357,911	45,821,169	41,536,742	0	0
コンベンション推進事業費	108,902,963	38,571,117	70,331,846	0	2,961,546
アマゾン館事業費	251,335,656	0	251,335,656	0	10,950,800
第3展示場事業費	788,881,240	0	788,881,240	0	△ 30,000,000
金・銀の湯等事業費	220,130,938	61,996,711	146,017,412	12,116,815	26,497,087
観光付帯事業費	202,663,785	37,905,737	162,302,332	2,455,716	32,049,501
会議場・展示場事業費	1,114,765,990	80,067,902	1,034,698,088	0	109,603,273
ホーティ781記念基金事業費	53,386,664	6,000,000	47,386,664	0	0
管 理 費	71,578,406	54,527,065	17,051,341	0	△ 21,403,171
特定資産引当金	45,847,200	8,847,200	37,000,000	0	△ 45,847,200
合 計	3,112,354,052	418,158,030	2,679,623,491	14,572,531	14,776,106

## 8 収支計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日, 単位: 円)

科 目	金 額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	2,180,189,520
2. 事業活動支出	2,040,654,759
事業活動収支差額	139,534,761
II 投資活動収支の部	
1. 投資活動収入	43,940,638
2. 投資活動支出	108,699,293
投資活動収支差額	△ 64,758,655
III 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	903,000,000
2. 財務活動支出	963,000,000
財務活動収支差額	△ 60,000,000
IV 予備費支出	—
当期収支差額	14,776,106
前期繰越収支差額	437,533,621
次期繰越収支差額	452,309,727

## I. 平成27年度事業計画

神戸の豊かな自然や歴史、特色あるまちなみを活かした国内外の人々が集い賑わう魅力あふれる「観光交流都市」の実現を目指すため、神戸市が策定した「神戸観光プラン」を踏まえ、民間事業者との連携をより一層密にしながら、神戸への観光客の誘致・受入体制の充実、コンベンション誘致推進などの事業に取り組みます。

事業実施にあたっては、当協会が果たすべき役割との整合性や、収益性と公益性とのバランスの検証を行いながら、収益力の強化につながる効果的な内容となるように努め、指定管理者施設においては利用者サービスの更なる向上を図ります。

併せて、組織の効率的な運営、人材の育成と活用を実践し、営業力強化と協会の自立的経営、コンプライアンスの徹底に努めてまいります。

### 1 事業計画

#### 1. 観光誘致宣伝事業

神戸への観光客誘致のため、市内の宿泊施設・観光施設や旅行会社等で構成される F e e l K O B E 観光推進協議会や神戸市観光・ホテル旅館協会等との連携を通じて、国内・海外に対して、誘致宣伝事業を推進します。

##### (1) 国内観光プロモーションの実施

神戸空港就航都市等において、旅行会社やマスコミに対する営業活動を行うとともに、市内の宿泊・観光施設と旅行会社とのマッチング機会を設け、具体的な旅行商品造成につなげることで、神戸への誘客促進を図ります。特に、平成27年度は、有馬温泉や六甲山、北野異人館など神戸が誇る観光地や、第21回神戸ルミナリエなどのイベント情報に加え、神戸グルメをはじめとした神戸の特産品を一体的に発信する取り組みを強化します。

また、広域観光の推進として、京都・大阪・神戸観光推進協議会等の連携事業を実施するほか、姫路城のグランドオープンや淡路花博 2015 花みどりフェア等の集客要素を活用した連携PRにも取り組みます。

##### (2) 教育旅行プロモーションの実施

震災からの復興の過程を学ぶことができる神戸ならではの震災学習メニューを組み入れたモデルコースなど神戸教育旅行の魅力を発信するとともに、教育旅行ワンストップ窓口を運営し、旅行会社・学校関係者等からの問合せに対して、迅速で的確な対応を行います。特に、市場規模の最も大きい関東圏において、教育旅行の行先を決定する学校側への直接的なアプローチを行い、効率的・効果的な誘客促進に取り組みます。

##### (3) 国際観光プロモーションの実施

現地の旅行会社等を対象とした観光説明会を開催し、神戸観光情報の発信を行うとともに、市内の宿泊・観光施設と現地旅行会社との商談会を開催してマッチング機会を増やすことで、具体的な旅行商品造成の促進を図ります。

また、これまでプロモーションを実施してきた東アジア（台湾・韓国・中国・香港）に加え、訪日観光客の一層の増加が見込まれる東南アジア（タイ・インドネシア・マレーシア等）からの誘客促進を重点的に実施します。さらには、大阪など周辺都市との連携のもと、欧米市場へのアプローチを図ります。

#### (4) 観光情報の発信

インターネットを通じて国内外に広く観光情報を発信するため、神戸公式観光サイト「Feel KOBE」を多言語で運営するとともに、より便利で魅力的なサイトづくりに取り組みます。特に、平成 27 年度は神戸市との連携のもと、多言語サイトの充実を図ります。

### 2. 観光客受入事業

神戸のまち全体のホスピタリティを高め、観光客にまた訪れたいと感じてもらえるように、受入体制の充実に努めます。

#### (1) 観光案内所の運営

J R 三ノ宮駅構内の総合インフォメーションセンターをはじめ、新神戸駅観光案内所・北野観光案内所を運営し、観光情報や市政情報の提供を行います。また、増加する訪日外国人観光客に対応すべく、多言語案内の強化とともにニーズに合った観光情報を提供し、案内所機能の一層の充実に努めます。

#### (2) クルーズ客船の受入

アジアクルーズをはじめとする国内外クルーズ船の乗船客が神戸観光を満喫できるよう、神戸市客船誘致協議会と連携して観光情報や神戸ならではの魅力を体験できるモデルコース等の情報を提供するとともに、歓迎行事の実施や臨時観光案内所の設置等を行い、クルーズ客船入港による市内経済の活性化に努めます。

#### (3) 観光客の利便性及び回遊性の向上

市内約 60 の主要観光施設で利用できる観光クーポン「神戸街遊券」の発行や、スルッとKANSAI 協議会による「神戸街めぐり 1 day クーポン」への参画、さらには、都心部の観光地をめぐる「シティー・ループ」一日乗車券の販売を観光案内所等で行うことで、観光客の利便性や回遊性の向上を図ります。

#### (4) おもてなし向上への取組み

市内の観光関連従事者を対象に、おもてなし研修の実施や観光情報の提供により、神戸全体の観光客へのおもてなし充実に努めます。

### 3. 観光推進事業

#### (1) イベント等の実施及び支援

「第 21 回神戸ルミナリエ」をはじめ、「須磨大茶会」、神戸まつりの「サンバストリート」等を開催するほか、「インフィオラータこうべ」等への支援、さらには「KOBE ビエンナーレ 2015」、「第 5 回神戸マラソン」等の開催 PR を行うことで、まちの賑わいと集客観光を図ります。

また、神戸市等の連携のもと「おとな旅・神戸」を引き続き実施し、新たな神戸の魅力創出に努めます。

#### (2) 滞在型観光の推進

夜景観光やウエディングの誘致を図ることで滞在型観光の推進を図り、市内経済の活性化に努めます。

#### 4. フィルムオフィス事業

神戸のまちが国内外のメディアに露出され、観光集客等による経済効果につながるよう、神戸市との連携のもと「神戸フィルムオフィス」の運営を行います。映画・テレビ・CM等の映像プロジェクトの誘致活動を行うとともに、ロケーション撮影に対するワンストップサービスを充実することで他都市との差別化に努めます。特に、平成27年度は当オフィスの活動15周年にあたり、神戸で撮影された映像作品のロケ地マップ等を作成するなど情報発信の強化を図ります。

また、海外フィルムコミッションとの連携強化を進めるとともに映画祭等でのPRを通じて、海外作品のロケーション誘致活動を行います。

#### 5. コンベンション推進事業

神戸の恵まれた自然環境や国際性、交通アクセスの良さ、会議場・展示場・ホテルが一体となったコンベンションセンターとしての強みを生かし、コンベンション関連施設や事業者との連携、民間人材の活用などにより、中長期的な視点で国際会議・国内大型学会・各種展示会・イベントの誘致に努めます。また、平成25年6月、神戸市が観光庁の「グローバルMICE戦略都市」に選定されたことから、市と協力して、国際会議誘致のための環境整備を進めます。

##### (1) コンベンション誘致活動の強化

医学系学会、工学系学会、大学や企業などを中心に関西エリア及び首都圏をはじめ全国に営業活動を展開します。

また、「神戸コンベンション誘致協議会」や医療産業都市、スーパーコンピュータ「京」との連携を一層強化し、神戸市全域のコンベンション誘致につなげるとともに、大型国内会議の開催都市の固定化に向けた動きにも対処していきます。

さらに、国内会議・大会への補助制度を活用し、大規模な会議・大会の誘致に努めます。

##### (2) MICE 誘致の推進

観光事業と連携した、国内外へのプロモーション、特に需要が拡大している東南アジア地域を中心に日本政府観光局と連携した商談会やキーパーソンの招請などを通して、支援メニューのPRを行うことなどにより、インセンティブツアーの誘致を図ります。

##### (3) 海外への誘致活動

日本政府観光局と共同して実施する海外の会議開催決定権者の招請事業をはじめ、ホテル、PCO、旅行会社等と連携してコンベンション誘致を図ります。

また、東京で開催される「国際ミーティング・エキスポ」、IMEX Frankfurtなどの海外国際会議見本市に出展し、誘致に努めます。

##### (4) 主催者・事務局へのサポートサービスと地元への還元

###### ① 豊富な経験と実績を生かしたサービス

広報活動の支援、交通機関など関係機関との連絡調整、助成金の申請等のコンサルティングやユニークなレセプションの紹介等、豊富な経験と実績を生かしたサービスを提供します。

## ②「MEET IN KOBE」等の展開

経済・文化等への波及効果が大きい国際会議の誘致促進のため、コンベンション関係団体と連携して、補助金交付をはじめ様々なサービスをパッケージにした国際会議誘致プロモーション「MEET IN KOBE」を引き続き実施し、協賛企業・団体のさらなる獲得に努めます。

## ③地元への還元

市民のコンベンション産業への理解を進めるため、コンベンションに併催される市民公開講座の開催支援を進めるとともに、コンベンション参加者と市内事業者との交流機会の創出を推進します。

## (5) 広報・宣伝の強化

国際会議誘致力の強化のため、ホームページの刷新、プロモーションビデオの作成を行うほか、内外のコンベンション専門誌等において、神戸のコンベンション情報を幅広く発信します。

また、学会参加者をおもてなしするだけではなく、マスコミへの定期的な情報提供や大型学会開催時のバナーの掲示など、広く市民にコンベンションを広報し、市民のコンベンションに対するホスピタリティの醸成に努めます。

海外に対しては、神戸市海外事務所、日本政府観光局の海外事務所を活用した情報発信等により、広く神戸のPRに努めていきます。

## (6) コンベンションの主催・共催

神戸のまちの魅力や施策の発信につながるテーマの展示会等を主催することにより、集客観光に資するとともに、コンベンション開催のノウハウを蓄積し、主催者サポートに活かします。

### ①「テクノオーシャン2016」の開催準備

海洋の科学技術に関する総合的な国際コンベンションとして、日本で唯一定期的（隔年）に開催している「テクノオーシャン2016」の開催準備をします。

### ②「第30回ISTS（宇宙及び科学技術に関する国際シンポジウム）」の地元主催事業の開催

2015年7月に神戸での開催が決定している「第30回ISTS」について、兵庫県・神戸市が主体となって行う地元主催事業の実行委員会事務局として、産業連携事業、教育事業、市民事業、参加者に対する歓迎事業を実施します。

## 6. 国際会議場、国際展示場の運営

指定管理者として、神戸国際会議場、神戸国際展示場の目標数値の達成はもとより、利用者へのサービス向上に努め、効率的な管理運営を行うとともに地域の活性化に貢献します。

### (1) 利便性向上と営業の取組み

設営・看板作製・ケータリングの手配などワンストップサービスにより、細やかな利用者のサービス向上を図ります。また、大型案件の獲得に向けて引き続き、ホテルや公共交通機関等との連携強化を進め、神戸コンベンションセンターとしてより一体的な営業展開を図ります。

## (2) 施設の維持管理・機能向上に向けた取組み

これまでもLANネットワークの整備、トイレの洋式化などを実施しておりますが、平成27年度は前年度に引き続き展示場1号館の外壁補修に加えてメインホールの照明設備の更新、会議場LANネットワークの強化など、施設を快適で安全にご利用いただけるよう整備を行う予定です。

## (3) 神戸コンベンションセンター協議会事業の展開

コンベンションを通じて地域の活性化に寄与するため、これまでに海外からの参加者向けにポートアイランドの案内看板の設置、ホテル・両替場所・空港バス乗り場などの案内チラシの作成配布、割引料金で利用できるポートルライナーおもてなし乗車証の作製や医学会総会時における市民広場でのバナー掲出などを実施してきましたが、平成27年度は誘致営業に向けた魅力的なギブアウェイの作製など、会議参加者へのホスピタリティーの充実を図ります。

## 7. 観光関連施設の管理・運営

### (1) 有馬温泉4施設の管理・運営

有馬の外湯「金の湯」「銀の湯」の2館、地域の情報発信拠点である「有馬の工房」、有馬の歴史博物館「太閤の湯殿館」を管理・運営します。

指定管理3期2年目は、平日限定入浴回数券の販売拡充やWi-Fi環境の整備等の取組みで利用者へのサービス向上を図ります。

なお、平成26年8月20日より休館しております「銀の湯」については、神戸市の改修工事を終えて、秋頃にオープンする予定です。

### (2) 萌黄の館の管理・運営

北野異人館のひとつである国の指定重要文化財「萌黄の館」を民間所有者から借り受けて一般公開し、北野を訪れる観光客へのサービス向上を図ります。

### (3) 須磨海浜水族園の管理・運営

須磨海浜水族園では、共同事業体（代表企業：㈱ウエスコ、構成企業：㈱名鉄インプレス、㈱アクアート）の構成団体の一員として、民間企業と共に、長年蓄積してきた施設の管理・運営ノウハウを発揮し、利用者にサービスを提供します。

## 8. ポートピア81記念基金による補助事業

ポートピア81記念基金を管理し、神戸市内で開催される国際会議等に補助を行います。

## 2 経営改善の取り組み状況

当協会は、平成 25 年 4 月に公益法人制度改革の流れを受け、柔軟な事業展開や自主的・自律的な運営が可能な一般財団法人へ移行した。引き続き、公益事業としての観光誘致宣伝事業やコンベンション推進事業、収益事業として国際会議場・国際展示場及び有馬温泉 4 施設を指定管理者として管理・運営を行い、さらには、観光付帯事業にも積極的に取り組むことで収益増と効率的な予算執行を図り、安定的な協会経営の基盤の確立に努めていく。

### (1) 平成 26 年度の取り組み

観光事業では、国内外からの観光客誘致を図るため、積極的に観光誘致宣伝事業や観光客受入事業に取り組んだ。特に、増加傾向にある訪日外国人旅行者の一層の誘致促進を図るため、JNTO 主催のインセンティブセミナーへの参加や国内商談会を通じ、効率的・効果的なプロモーション活動を実施した。

有馬温泉 4 施設の管理・運営では、改修工事により休館した「銀の湯」を除き、管理経費の見直し等効率的な施設運営に努めた結果、収益改善が図られた。

また、国際会議場・国際展示場では、国際分野や全国的な営業活動の強化、リピーター顧客に対する囲い込み営業に取り組んだ結果、件数は微減しているが、全館利用など規模の大きな催事が増加したことから、大幅な収益増を図ることができた。

### (2) 平成 27 年度の取り組み

観光事業では、引き続き、国内外からの観光客誘致に向け、観光誘致宣伝事業や観光客受入事業に取り組む。インバウンド誘致については、従来の東アジア 4 国(台湾、韓国、中国、香港)に加え、訪日観光客の一層の増加が見込まれる東南アジア(タイ、インドネシア、マレーシア)からの誘客促進に取り組む。さらに、訪日外国人旅行者の利便性向上を図るため、観光ガイドブックや観光マップ、公式観光サイトの多言語化を進める。

有馬温泉 4 施設の管理・運営では、利用者へのサービスの向上と 4 施設の利便性・回遊性の向上を図ることにより、利用者増と収益増に努める。

国際会議場・国際展示場では、医療産業都市やスーパーコンピューター「京」等、神戸の主要プロジェクトを通じて神戸に集まった各分野のキーマンの人的ネットワークを活かして、人・物・情報の交流・発信を行い、コンベンション誘致に結び付けていく。また、リピーター顧客への積極的な訪問営業を行うことにより、収益増に努める。

### 3 事業別収支予算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日, 単位: 千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
観光事業収入	63,483	観光事業費	123,265
フィルムオフィス事業収入	51,375	フィルムオフィス事業費	53,055
観光案内所事業収入	90,372	観光案内所事業費	90,372
コンベンション推進事業収入	126,950	コンベンション推進事業費	130,527
アマゾン館事業収入	242,642	アマゾン館事業費	232,108
第3展示場事業収入	723,902	第3展示場事業費	736,902
金・銀の湯等事業収入	220,277	金・銀の湯等事業費	217,563
観光付帯事業収入	231,801	観光付帯事業費	189,265
会議場・展示場事業収入	1,191,289	会議場・展示場事業費	1,116,219
ポर्टビ°781記念基金事業収入	82,941	ポर्टビ°781記念基金事業費	82,941
管理運営事業収入	31,262	管理費	74,077
		予備費	10,000
当期収入合計 (A)	3,056,294	当期支出合計 (C)	3,056,294
前期繰越収支差額	437,534	当期収支差額 (A) - (C)	0
収入合計 (B)	3,493,828	次期繰越収支差額 (B) - (C)	437,534

#### 4 予定正味財産増減計算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日、単位：千円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	728
基本財産受取利息	728
② 特定資産運用益	25,000
特定資産受取利息	25,000
③ 受取会費	2,374
賛助会員受取会費	2,374
④ 事業収益	1,752,935
コンベンション推進事業収益	6,000
アマゾン館事業収益	38,642
第3展示場事業収益	68,902
金・銀の湯等事業収益	216,301
観光付帯事業収益	231,801
会議場・展示場事業収益	1,191,289
⑤ 受取補助金等	226,432
観光事業受取補助金	18,110
コンベンション推進事業受取補助金	117,950
観光案内所事業受託収益	90,372
⑥ 受取負担金	100,724
観光事業受取負担金	45,373
フィルムオフィス事業受取負担金	51,375
金・銀の湯等事業受取負担金	3,976
⑦ 受取寄付金	82,941
受取寄付金振替額	82,941
⑧ 雑収益	3,160
受取利息	3,000
その他収益	160
経常収益計	2,194,294
(2) 経常費用	
① 事業費	2,089,948
観光事業費	120,021
フィルムオフィス事業費	52,465

科 目	金 額
観光案内所事業費	89,192
コンベンション推進事業費	125,168
アマゾン館事業費	11,108
第3展示場事業費	26,015
金・銀の湯等事業費	215,793
観光付帯事業費	187,201
会議場・展示場事業費	1,112,090
ポートピア81記念基金事業費	82,941
減価償却費	67,954
② 管理費	89,726
管理費	71,718
減価償却費	313
退職給付費用	17,695
経常費用計	2,179,674
当期経常増減額	14,620
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	14,620
一般正味財産期首残高	1,620,887
一般正味財産期末残高	1,635,507
II 指定正味財産増減の部	
① 特定資産運用益	11,826
特定資産受取利息	11,826
② 一般正味財産への振替額	△ 82,941
一般正味財産への振替額	△ 82,941
当期指定正味財産増減額	△ 71,115
指定正味財産期首残高	1,251,000
指定正味財産期末残高	1,179,885
III 正味財産期末残高	2,815,392

## 5 予定貸借対照表

(平成28年3月31日現在、単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	321,567	未払金	331,296
未収金	63,242	買掛金	759
売掛金	178,035	前受金	25,162
前払金	1,904	預り金	17,000
有価証券	312,176	預り保証金	49,500
商品材料	417	未払消費税	22,338
保証金	31,510	短期借入金	859,000
短期貸付金	3,000	流動負債合計	1,305,055
流動資産合計	911,851	2. 固定負債	
2. 固定資産		退職給付引当金	471,286
(1) 基本財産		固定負債合計	471,286
投資有価証券	130,000	負債合計	1,776,341
基本財産合計	130,000		
(2) 特定資産		III 正味財産の部	
退職給付引当資産	471,286	1. 指定正味財産	1,179,885
減価償却引当資産	372,743	寄付金	1,179,885
ポ-ト781記念基金	1,049,885	指定正味財産合計	1,179,885
特定資産合計	1,893,914	(うち基本財産への充当額)	(130,000)
(3) その他固定資産		(うち特定資産への充当額)	(1,049,885)
建 物	1,005,083	2. 一般正味財産	1,635,507
什器備品	1,513	(うち基本財産への充当額)	(0)
投資有価証券	2,000	(うち特定資産への充当額)	(372,743)
コンベンション推進積立資産	124,000	正味財産合計	2,815,392
修繕積立資産	523,372		
その他固定資産合計	1,655,968	負債及び正味財産合計	4,591,733
固定資産合計	3,679,882		
資産合計	4,591,733		

## 6 事業別予定収入明細書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日, 単位: 千円)

	収入合計	内 訳			
		事業収入	受託収入	補助金収入	その他収入
観光事業収入	63,483	45,373	0	18,110	0
フィルムオフィス事業収入	51,375	51,375	0	0	0
観光案内所事業収入	90,372	0	90,372	0	0
コンベンション推進事業収入	126,950	6,000	0	117,950	3,000
アマゾン館事業収入	242,642	38,642	0	0	204,000
第3展示場事業収入	723,902	68,902	0	0	655,000
金・銀の湯等事業収入	220,277	216,301	0	0	3,976
観光付帯事業収入	231,801	231,801	0	0	0
会議場・展示場事業収入	1,191,289	1,181,289	0	0	10,000
ホートビニア81記念 基金事業収入	82,941	82,941	0	0	0
管理運営事業収入	31,262	0	0	0	31,262
合計	3,056,294	1,922,624	90,372	136,060	907,238

## 7 事業別予定支出明細書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日, 単位: 千円)

	支出合計	内 訳			収支差額
		人件費	物件費	材料費	
観光事業費	123,265	69,700	53,565	0	△ 59,782
フィルムオフィス事業費	53,055	18,744	34,311	0	△ 1,680
観光案内所事業費	90,372	45,850	44,522	0	0
コンベンション推進事業費	130,527	50,996	79,531	0	△ 3,577
アマゾン館事業費	232,108	0	232,108	0	10,534
第3展示場事業費	736,902	0	736,902	0	△ 13,000
金・銀の湯等事業費	217,563	60,175	146,904	10,484	2,714
観光付帯事業費	189,265	36,100	149,865	3,300	42,536
会議場・展示場事業費	1,116,219	96,100	1,020,119	0	75,070
ホートビ781記念基金事業費	82,941	6,000	76,941	0	0
管 理 費	74,077	52,706	21,371	0	△ 42,815
予 備 費	10,000	0	10,000	0	△ 10,000
合 計	3,056,294	436,371	2,606,139	13,784	0

## 8 収支予算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日, 単位: 千円)

科 目	金 額
I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	2,126,179
2. 事業活動支出	2,096,712
事業活動収支差額	29,467
II 投資活動収支の部	
1. 投資活動収入	71,115
2. 投資活動支出	46,582
投資活動収支差額	24,533
III 財務活動収支の部	
1. 財務活動収入	859,000
2. 財務活動支出	903,000
財務活動収支差額	△ 44,000
IV 予備費支出	10,000
当期収支差額	0
前期繰越収支差額	437,534
次期繰越収支差額	437,534

## VI 平成26年度主要事業計画・実績比較表

事業名	区分	事業計画	実績	増△減
神戸国際会議場	利用件数	260件	233件	△ 27 件
神戸国際展示場	利用件数	143件	132件	△ 11 件
金の湯	入館者数	275,000人	314,168人	39,168 人
銀の湯	入館者数	105,000人	41,561人	△ 63,439 人
有馬の工房	入館者数	80,000人	80,181人	181 人
太閤の湯殿館	入館者数	12,500人	15,176人	2,676 人
萌黄の館	入館者数	195,100人	177,892人	△ 17,208 人

Ⅶ 主要事業の推移(平成24年度～平成26年度)

事業名	区分	24年度 実績	25年度		26年度	
			実績	対前 年比	実績	対前 年比
神戸国際会議場	利用件数	207件	246件	118.8%	233件	94.7%
神戸国際展示場	利用件数	129件	134件	103.9%	132件	98.5%
金の湯	入館者数	261,092人	275,598人	105.6%	314,168人	114.0%
銀の湯	入館者数	98,706人	111,066人	112.5%	41,561人	37.4%
有馬の工房	入館者数	76,396人	80,475人	105.3%	80,181人	99.6%
太閤の湯殿館	入館者数	13,207人	14,173人	107.3%	15,176人	107.1%
萌黄の館	入館者数	192,535人	189,814人	98.6%	177,892人	93.7%